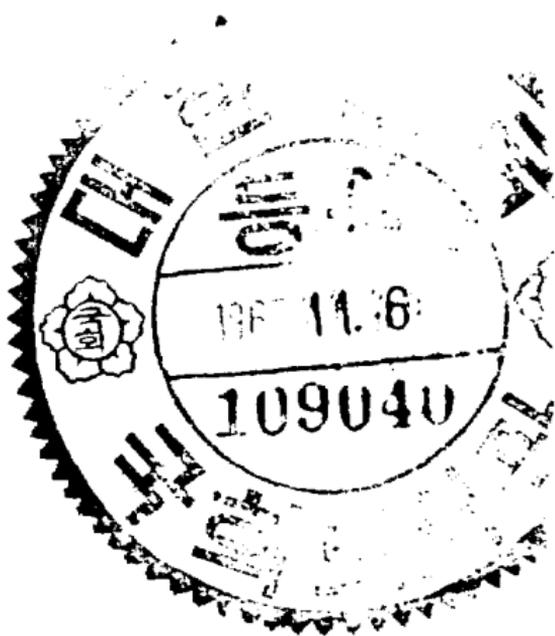


GOVP3198007413

338.0951 ㄸ538 ㄸ

朝鮮の物産

1935



商工獎勵館は本府の經營に係り元商品陳列館と稱し大正元年十一月三日京城府永樂町に創設し専ら産業啓發機關として機能の發揮に努めつつありしも時代の進運に伴ひ位置の不適を感じ南大門通四丁目市内樞要の地を撰定工費約二十四萬圓を投じ新築し昭和三年十一月起工同四年十月竣工と共に移轉し同年十一月十四日商工獎勵館と改稱せり建物は鐵筋コンクリート造オランダ式四階建にして總坪八百三十五坪六合一階を即賣場及圖書室に充て二階三階を各道生産品陳列場及事務室に充て四階は講演室及各種催しものゝ場所とし其他電燈、暖房、昇降機の如き最新式を採用し尙衛生設備に至るまで遺憾なく完備せり

目次

朝鮮の物産

總

農

産

物

説

米	(一)
大豆	(二)
大麦	(三)
麥	(四)
粟	(五)
棉花	(六)
繭	(七)
繭	(八)
果實	(九)
大實	(一〇)
大實	(一一)
麻	(一二)
麻	(一三)

林

楮	(一四)
天日草	(一四)
莞草	(一五)
蜂蜜	(一六)
奇牛	(一七)
葉煙草	(一八)
繩、叭、筵	(一九)
林産物	(二〇)
紅松	(二一)
杉松	(二二)
落葉松	(二二)
アカマツ	(二三)
赤柏松	(二三)
檀木	(二四)
ボプラ材	(二四)

銅	(三四)
鐵	(三三)
石炭	(三二)
金	(三〇)
鑛產物	(三〇)
藥料植物	(二九)
椎茸	(二九)
漆液	(二九)
天安胡桃	(二八)
松の實	(二八)
平壤栗と朝鮮栗	(二七)
五倍子	(二七)
木炭	(二五)
アベマキ樹皮	(二六)
ニセアカシヤ	(二五)
ハシノキ類	(二五)

タンゲステン	(三五)
水鉛鍍	(三六)
黒鉛	(三七)
高嶺土	(三八)
硅砂	(三九)
大理石	(四〇)
水産物	(四〇)
鮮魚	(四一)
水産物雜誌	(四二)
鹽	(四三)
寒天	(四三)
乾海苔	(四四)
海藻	(四五)
魚肥料	(四六)
魚油	(四七)

乾	具類	(四八)
乾	乾鱈	(四八)
乾	明太魚	(四九)
鹽	乾鱈	(五〇)
鹽	藏鱈	(五一)
海	蔘	(五一)
乾	玉筋魚	(五二)
乾	蝦	(五二)
工 產 物			
生	絲	(五五)
絹	布	(五六)
綿	布	(五七)
苧布及麻布		(五八)
靴	下	(五九)
金屬製品		(五九)

陶磁器	(六〇)
硝子製品	(六一)
セメント及同製品	(六二)
石 鱈	(六三)
植 物 油	(六四)
動物油脂	(六五)
護 謨 製 品	(六六)
朝 鮮 紙	(六七)
皮革及同製品	(六八)
煉炭及コークス	(六九)
木 製 品	(七〇)
酒類及醬油	(七一)
小 麥 粉	(七二)
砂 糖	(七三)
菓 子	(七四)

麵類	(七四)
麵子	(七五)
竹製	(七六)
杞柳製	(七七)
莞草製	(七八)
天日草製	(七九)
漆器	(七九)
石器	(八一)
人蔘	(八一)

附 錄

輸移出入品價額港別	(八三)
輸移出入品價額三年對照	(八五)
會社一覽表	(八五)
工場一覽表	(八九)

市場一覽表	(九一)
南品陳列所一覽表	(九二)
商工會議所一覽表	(九三)
重要物産同業組合一覽表	(九五)
産業組合一覽表	(九八)
商工獎勵館規則	(一〇七)
總則	(一〇七)
出品及寄贈	(一〇九)
觀覽	(一一一)
圖書閱覽	(一一三)
調書紹介及圖案調製	(一一三)
講演室及陳列室の貸與	(一一五)
陳列品點數	(一一〇)
商工獎勵館平面圖	

朝鮮の物産

總說

朝鮮の産業は往時相當殷盛の域に達したる跡あるも爾來國運と共に産業の萎靡、商況の沈衰殆ど其の極に達し其の生産額の如き明治四十三年に於ては三億六百萬圓、輸移出入額は六千萬圓に過ぎざりしも朝鮮總督府設置以來銳意産業振興の方法を講じたる結果最近に於ける生産物總價額十五億五百八十萬八千餘圓を算するに至れり内農産九億二千八十四萬一千餘圓、林産七千九百五十六萬圓、水産八千九百八十七萬一千餘圓、鑛産四千八百三十萬一千餘圓、工産三億六千七百二十三萬五千餘圓にして輸移出入額七億七千二百八十一萬三千餘圓を算するに至り之を併合當時に比するときは生産額に於て約五倍、輸移出入額に於て約十三倍の増額を示すに至れり

農 産 物

農業は古來朝鮮産業の大宗にして全人口二千萬餘人の約八割之に従事し農業生産額は産業生産總額の約六割に相當し農産物及同加工品の輸移出額は總輸移出額の約三割を占め朝鮮に於ける經濟の消長は農産物の豊凶並價格の高低に因るの狀態に在り故に農業の改良發達に付ては併合以來多額の經費を投じ又各種の勸農機關を設け銳意其の目的を貫徹するに努めつゝあり昭和八年末現在の耕地面積は水田百六十六萬餘町步、畑二百七十五萬一千餘町步、火田三十六萬六千餘町步、土地臺帳未登錄耕地見積面積水田約二萬一千餘町步、田約五萬六千町步、火田約三十六萬七千町步、總計約四百八十五萬六千町步にして其の陸地面積に對する割合は中部以南は三割北部は一割餘平均約一割九步強に當り農家一戸當耕地反別約一町六反步にして干瀉地、草生地等の未墾地を開拓すべきもの尙少からざるのみならず既墾地の如きも一般に灌溉其の他改善を要するもの多く本府に於ても或は國有未墾地利用法を發布し未墾地の開墾を完うしたる者には其の土地の無償讓渡を爲し或は水利灌溉事業の經營に對しては國費の補助を與ふる等種々之が施設を怠らず漸次効果を擧げつゝあり農産品中其の重なるものに付左に概況を記述せん

米

米は朝鮮に於ける最も重要な産物にして且貿易品の首位を占め、全道其の生産を見ざるなく特に中部以南の各道に多し、其の品質及食味等内地の優良米に比し何等の遜色なきを以て當局は始政以來生産増加と品質の改良を圖ると共に作付段別の擴張、施肥の増加、優良品種の普及更新、其の他耕種法の改良及乾燥調製の改善等に努めつゝあるを以て往時に於けるが如き土砂夾雜物の混入多き劣悪米其の跡を絶ち今や作付段別一百六十九萬七千餘町歩、收穫高一千八百十九萬餘石の優良米を生産するに至り始政當時の生産額一千四十萬餘石に比すれば約八百萬石の増加を示し、尙輸出高は昭和八年に於て七百九十九萬餘石其の價額一億五千四百七十一萬餘圓にして始政當時の輸出高五十四萬石に比し約十五倍に増加せり

米の品種は穀良都、銀坊主、多摩錦、陸羽一三二號、龜尾、錦、赤神力等最も多く昭和八年に於ては之等内地系優良種の作付面積は總作付段別の七割八分即ち一百三十萬餘町歩に普及するに至り種子の更新乾線調製の改善と共に一面米穀検査の實施と相俟つて鮮米の品質頓に向上し内地に於ける需要も年々増加の趨勢にあり最近に於ける實況を示せば左の如し

米

大豆

四

年次	區別	作付段別	收穫		輸移		出高	
			數量	價額	數量	價額	數量	價額
昭和七年		一、六四三、四四九・〇 ^町	一六、三四五、八三五 ^石	三〇八、九三三、八八五 ^圓	七、五〇八、四四三 ^石	一四三、三三七、二三三 ^圓		
昭和八年		一、六六七、四六三・九	一八、一九二、七二〇	三四一、五九〇、一四八	七、九九〇、五六八	一五四、七〇六、六五八		

大豆

大豆の耕作は氣候風土好適するを以て比較的粗笨なる農法に依るも品質優良にして相當の收穫あるを以て始政以來品種の統一、栽培法並調製法の改善に力を注ぎ收穫高の増加と品位の向上に努めつゝあり朝鮮産大豆は主として豆腐及味噌、醬油等の醸造原料等即ち食用として賞掲せられ内地市場に於ける聲價は常に滿洲大豆を遙に凌駕し且内地に於ける生産不足は年と共に其の額を増加し之が供給を朝鮮大豆に求むるに至り年次移出の増額を示せり

麥

年次	區別	作付段別	收穫		輸移	
			數量	價額	數量	價額
昭和七年		八〇九、九一・八 ^町	四、四〇九、六七七 ^石	四五、五二八、八九五 ^圓	一、七〇八、九三六 ^石	三〇、五三九、三三九 ^圓
昭和八年		八〇三、八五一・一	四、五五五、五二七	四四、〇〇一、四六一	一、四五八、六五八	一九、二七五、三五九

麥は農家の重要なる食糧作物にして殆ど全鮮に互り之が栽培を見ざるなく、中部以南地方に於ては秋蒔を行ふを普通とし西北鮮地方に在りては冬期の寒氣酷烈なる爲、大麥は之を春蒔とし小麥に在りても一部地方に在りては春蒔せらる、始政以來之が增收に付種々勸奨し就中昭和六年以降粟及大豆と共に増産計畫實施中なるを以て年次其の生産額を増加しつゝあり、大麥、裸麥は殆ど全部鮮内消費に充てられ小麥は製粉原料として一部を輸移出せられつゝあるも、最近大麥、小麥を併せて百九十二萬圓以上の輸移入を見るの狀勢なり、其の實況を示せば左の如し

年次	區別				收 穫			高			
	作	付	反	別	大麥	小麥	裸麥	合計	價額合計	輸移入高	
昭和七年	大麥 八六,五八六町	小麥 三三,五九七町	裸麥 九,五三〇町	合計 一二九,七一二町	八〇,〇〇三石	一七六,二九七石	合若一二三,〇〇〇石	三〇,九一二石	高三,九三〇圓	三,四〇〇石	一,五三,五三六圓
昭和八年	大麥 八八,八〇三町	小麥 三三,三三三町	裸麥 一〇,四八三町	合計 一三二,六一九町	八五,〇〇〇石	一七三,〇〇〇石	合若一二〇,〇〇〇石	三三,〇〇〇石	高三,五〇〇圓	二,四〇〇石	一,九六,六三三圓

備考 輸移入高ハ大麥、小麥ノ合計ナリ

粟

粟は畑地面積廣大なる西北鮮地方に於て多く栽培せられ鮮人の常食とす、然れども其の收穫高は需要を充たすに足らず年々多量の滿洲粟を輸入しつゝあるを以て之が増殖に就ては別途計畫に基き品種の改良、耕種法の改善に依り増産に努めつゝあり

年次	區別	作付反別	收穫		輸移入	
			數量	價額	數量	價額
昭和七年		八〇六、六四〇・七 ^町	五、五三九、三八一 ^石	四三、七八、四六四 ^圓	一、五二八、三七七 ^石	一六、〇三六、三五 ^圓
昭和八年		七九七、三六・三	五、一四五、三〇一	四〇、三四、五四一	一、〇九一、六〇一	一三、七六七、八九〇

棉花

朝鮮の風土は棉花の栽培に適し古來より各道に互り廣く在來棉の栽培を見たるも收量繰棉歩合共に多からず僅に自家用として地木棉の原料・中入棉等に供せられたるに過ぎざりしが始政以來忠清南北道以南の各道には米國種陸地棉の栽培を奨勵し京畿道及西鮮地方には在來棉の改良を奨勵し今や朝鮮に於ける棉花の栽培は著しく發達するに至り殊に昭和八年より十箇年計畫を以て栽培し總反別を三十五萬町歩に達せしめ其の生産實棉大約四億二千萬斤（反當平均百二十斤）に達せしむべき方針にて現に栽培法の改良を促しつゝあり棉花生産の増加に伴ひ繰棉業

棉花

八

亦各地に互り勃興し規模大なるもの尠からず其の主なるものは朝鮮棉花株式會社、南北棉業株式會社及朝鮮紡績株式會社等とす最近に於ける實況を表示せば左の如し

區別	年次		昭 和 七 年	昭 和 八 年
	作付段別	收穫高(實棉)		
陸地棉	作付段別	收穫高(實棉)	100,333.0 町	117,330.8 町
	收穫高(實棉)	收穫高(實棉)	11,909,164 斤	11,431,478 斤
陸地棉	生産額	生産額	15,269,780 圓	14,477,533 圓
	作付段別	收穫高(實棉)	58,937.6 町	59,338.2 町
在來棉	作付段別	收穫高(實棉)	42,368,593 斤	45,102,096 斤
	收穫高(實棉)	收穫高(實棉)	5,140,064 圓	5,389,495 圓
在來棉	生産額	生産額	159,269.6 町	176,659.0 町
	作付段別	收穫高(實棉)	54,277,757 斤	159,415,574 斤
合計	作付段別	收穫高(實棉)		
合計	收穫高(實棉)	收穫高(實棉)		

繅繭輸出高		生産額	
價	數	價	量
		三、五〇五、三九三	一四、二四六、七〇〇
			一九、八六七、〇二八
			一四、二四六、七〇〇
			六、四九九、一九八

繭

朝鮮の氣候は養蠶に好適し各地共に其の生産を見ざるはなく大正十四年以來産繭百萬石增收計畫遂行に依り逐年増産の趨勢なり、始政以來本府及地方廳に技術者を配置し桑園の増殖、飼育法の改良を圖り農事試験場蠶絲部及道原蠶種製造所を設立して蠶種の改良統一を促し一面朝鮮蠶業令を發布し各道に蠶業取締所を設け蠶病豫防を勵行し桑苗蠶種繭等生産販賣の取締をなさしめ其の品質向上を圖る等斯業の發展に努めつゝあり、最近に於ける産繭額は約七十五萬石にして其の品質は殆ど内地の優良品に劣らざるものを産出し從來の面目を一新し將來益々發達せむとする状態を示せり最近に於ける家蠶繭の實況を示せば左の如し

年 次	區 別	區 產		高 移		出 高	
		量	價	額	數	量	價
昭 和 七 年		五九三、〇五八 <small>石</small>		一〇、七四二、二三四 <small>圓</small>		五八、三〇四 <small>石</small>	
昭 和 八 年		六六八、〇三四		三、八六四、六九〇		五四、七一九	
							一、二五八、〇五九 <small>圓</small>
							一、七四八、五七四

果 實

朝鮮の氣候風土は果樹の栽培に好適し柑橘類を除く外内地に於ける主なる果實は殆ど凡て其栽培に適すと雖在來種は概ね品質粗惡なりしを以て優良品種の普及を企圖し之が栽培獎勵に努め年に共に増加の趨勢にあり苹果にありては平安南道、黃海道、咸鏡南道、京畿道、慶尙北道にして、梨は慶尙南道、黃海道、京畿道、全羅南道、蘄苴は慶尙北道、京畿道、平安南道、栗は平安南道は主産地として朝鮮名物平壤栗の聲價高く一箇年約六萬九千石の生産あり殊に最近苹果は内地、支那、滿洲、西伯利亞及南洋地方の市場に歡迎せらるゝに至り大邱、三浪津及鎮

南浦等に於ては既に同業組合を組織し販路の擴張に努めつゝあり最近の主要果實生産狀況を示せば左の如し

果實	年次			昭和七年			昭和八年		
	價	收	栽	價	收	栽	價	收	栽
柿	額	高	數	一、六四三、八二五	四	六、五四四、五一八	實	八二一、七九五	本
	價	收	栽	一、八七〇、一〇〇	四	一、八七〇、一〇〇	四	一、八七〇、一〇〇	四
	價	收	栽	一、八七〇、一〇〇	四	一、八七〇、一〇〇	四	一、八七〇、一〇〇	四
梨	額	高	數	三、八九六、七六三	實	八七八、六六三	本	三、四七七、二五八	實
	價	收	栽	三、八九六、七六三	實	八七八、六六三	本	三、四七七、二五八	實
	價	收	栽	三、八九六、七六三	實	八七八、六六三	本	三、四七七、二五八	實
苹果	額	高	數	四、三一、三八七	四	一、九八一、六五九	本	四、六四九、二九一	四
	價	收	栽	四、三一、三八七	四	一、九八一、六五九	本	四、六四九、二九一	四
	價	收	栽	四、三一、三八七	四	一、九八一、六五九	本	四、六四九、二九一	四
果實	額	高	數	一、八六八、六四三	本	一、九八一、六五九	本	一、四二六、六三六	四
	價	收	栽	一、八六八、六四三	本	一、九八一、六五九	本	一、四二六、六三六	四
	價	收	栽	一、八六八、六四三	本	一、九八一、六五九	本	一、四二六、六三六	四

果實

大麻

一二

合	計	收	穫	高
價	額	額	額	額
三三、一五八、三〇七	七、八二五、三三三	二一、三七〇、一三三	七、九七三、三五五	二、五四八、三三五
一、七〇二、八七六				

大 麻

大麻は衣服、綱、草鞋其の他の材料として需要多く特用作物中重要なる地位を占む殊に内地栃木種を各地に試作したるに品質收量共に在來種に優ること明となり既に二萬七千町歩餘の作付反別を有するに至り將來有望視せらる、生麻は從來殆ど鮮内の需要を充たすに過ぎざりしが近年製織の發達に伴ひ鮮人需要の外麻布として内地向移出を見るに至れり主産地は江原、慶南平北、咸南、慶北及全南の各道とす

年	區	別	作	付	反	別	收	穫	高
次							數	量	額
昭								價	
和									
七									
年									
							二七、三六	五、二七五、二六	五、一六三、七四

昭和八年	二七、二九	五、二六七、三九九	五、四五〇、五六五
------	-------	-----------	-----------

苧 麻

苧麻の栽培は氣温の關係上南鮮の一部地方に限られ其の纖維強靱にして細く光澤絹絲の如くなるを以て上等の夏期用衣服の原料に用ゐらるゝも其の需要を充たすに足らず最近一箇年支那麻布百七十萬圓以内外の輸入を仰ぎつゝあり、尙主産地方に於て之が増殖を計りつゝあるを以て近年幾分の増加を見るに至れり其の收穫高最も多きは全北にして全南及忠南の各道之に次ぐ

年次	別	作付反別	收穫	
			數量	價額
昭和七年		一、五、〇〇〇 <small>町</small>	一四五、四〇六 <small>石</small>	五七九、九七六 <small>円</small>
昭和八年		一、五、四・六	一四五、二七七	六〇三、四六〇

苧 麻

楮

朝鮮に於ては高麗朝に於て既に製紙の事業發達せる跡あり其の原料たる楮の栽培に關しては古き歴史を有す而して現今各道共多少栽培をなしつゝあるも生育關係上主として南鮮地方の山間に多く山麓の沃土又は溪流の堤塘等に粗放的に栽培せり最近栽培作付反別は七千百町歩以上に達し就中慶尙北道、全羅北道及慶尙南道最も栽培盛なり尙栽培獎勵及改良増産を計りつゝあるを以て品質向上し收穫高漸次増加しつゝあり

年次	區別	作付反別	收穫	
			數量	高價額
昭和七年		七、三五八・五町	一、八九四、八九八	一、〇四六、八九三
昭和八年		七、二二・二	一、七九七、四三三	一、〇七一、四三五

天日草

天日草は蘭草よりも細く且短く水邊温地に自生す主に平安南北道、黃海道、慶尙南道等に産し就中大同江下流の沿地に多産す草丈二尺五寸内外、品質強靱、屈曲自在なるを以て手提、巻煙草入、編組物等は最も高尚なるが故に上流家庭間に愛用せられ博覽會、共進會にて賣行旺盛なり

莞 草

莞草は朝鮮特有の産物にして古來農家に自用する蓆の原料として特に肥沃なる家垞附近の畚を選び小規模の栽培をなし來れり其の纖維強靱且色澤鮮麗なるを以て裝飾用、工藝用として美術的製作に適す近年本草を以て疊表、帽子、靴、行李、スリツバ、卷煙草入、鞍等の實用品或は蠶座、蠶網等を製作するに至り特に疊表としては美麗且丈夫なる點に於て蘭表に優る製品を得るに至れり主なる産地は全羅南道、黃海道、京畿道、慶尙北道及忠清南北道とす又其の髓は草鞋の材料とし又は小繩とし或は經木眞田の如く帽子を製し又は製紙の原料に供せらる最近に於ける收穫高左の如し

蜂 蜜

年 次	區 別	作 付 反 別	收 量	價 額	高 額
昭 和 七 年	昭 和 七 年	昭 和 七 年	四、〇〇七 <small>町</small>	一、三六、〇二二 <small>圓</small>	八八五、五五三 <small>圓</small>
昭 和 八 年	昭 和 八 年	昭 和 八 年	二、九九三・三	一、三三七、二四三	八九八、七七〇

養蜂に關しては各道共概して古き歴史を有し其の品種は内地の在來種と酷似し形狀、色彩、習性及生産的價値に於て外國種に比し劣れると雖元來鮮人は蜂蜜を嗜好し單に藥用、嗜好品としてのみならず日常の調味料として賞味せらる、近時伊太利種「カニオラン」種移入せられ平北、江原、平南、京畿各道を主として漸次々道に普及せらる、最近に於ける其の生産を示せば左の如し

年 次	區 別	生 産 量	價 額	高 額
昭 和 七 年	昭 和 七 年	九三三、二七四 <small>町</small>	九六八、〇〇五	七三七、七八〇 <small>圓</small>
昭 和 八 年	昭 和 八 年	九六八、〇〇五	九六八、〇〇五	七六三、三二五

畜 牛

朝鮮は古來畜牛の飼育に適し體格偉大、體質強健にして粗放なる飼養に堪へ性溫順にして力強く肉味又美なるを以て役用及肉用何れにも好適す本府は朝鮮牛輸移出の有望なるに鑑み牛種の改良と増殖を期し種牛の保護及種付の奨勵其の他畜牛に關する施設をなし昭和八年に於ては現在數一百六十六萬三千頭以上に達し之を耕地面積に割當する時は十町歩に對して約四頭の割合なり昭和八年の出産數は三十六萬六千頭、肉用として消費せらるゝもの約二十九萬頭、生牛として輸移出するもの約六萬七千頭内外を算す

年 次	區 別	年 末 頭 數	出 産	屠 殺	生 牛 輸 移 出 高	
					數 量	價 額
昭 和 七 年		一、六六四、四三五 <small>頭</small>	三六四、二〇六 <small>頭</small>	二九〇、八七九 <small>頭</small>	五五、四八三 <small>頭</small>	三、二四六、二七五 <small>頭</small>
昭 和 八 年		一、六六三、一三六	三六六、五三〇	二八八、一七五	六七、八六三	四、二六一、四九四

葉煙草

煙草は特殊農産物中重要なるものにして之が栽培は古來全道到る處に行はれたり就中忠北、江原、全北、平南、黄海、慶北の各道は何れも主産地に屬せり從來煙草は消費税の形式に依りたるが大正十年之を廢止し專賣制度を實施せり、而して各地に支局及出張所を設置し之に専門技術員を配して耕作指導をなし各種煙草の試作竝乾燥、調理等の試験を行ひ又は各地の地質、氣象等に稽へ新規に適種耕作の創始に留意する等種々畫策する所あり漸次一般耕作者の注意を喚起し年と共に其の效果を見るに至れり現に耕作する煙草の種類は朝鮮種、内地種及黄色種の三種とす

年次	品名	種類	數量	賠償金
昭和八年	朝鮮種	種	三、四四、二〇六	二、九五三、一六七
	内地種	種	二二二、一三五	二六五、三七八
	黄色種	種	六九二、九一九	一、六三七、八五三
	計	種	四、三四九、二五〇	四、八五五、三九八

備考 試作をふくまず

繩、叭、筵

繩、叭及筵の製造は農家の副業として奨励され其の主産地は京畿、全南を始め全北、忠南、慶北及慶南等とす、總督府は始政以來製造方法の傳習、器具の配付、生産組合の設立及生産物検査の施行等の施設に依り之が奨励に努めたる結果其の生産額近年急激の増加を示し始政當初は年々多數の移入を見つゝありしも近時内地品の移入を防遏し得たるのみならず最近に於ては内地及滿洲地方に輸移出するに至れり

年次	區別		
	繩	叭	筵
昭和七年	六一、三八二 <small>千枚</small>	四九、七四 <small>千枚</small>	五、三九一 <small>千枚</small>
昭和八年	六三、三七	五三、八四五	五、三二

繩、叭、筵

林産物

朝鮮に於ける林野の總面積は一千六百四十三萬餘町歩を算し全土の約七割四分を占むるに拘らず成林地は僅に六割五分即ち約一千九十二萬餘町歩に過ぎず而も其の内約六百二十一萬町歩は國有林に屬し鴨綠江、豆滿江の兩流域又は脊梁山脈に偏在し交通運搬不便にして大半未利用林の状態を呈す、其の他の約五百四十二萬町歩の内には約五割即ち二百六十五萬町歩の散生地ありと雖地力減耗して充分の生育を期待し難く殘地二百七十七萬餘町歩は全く生産に與らざる未立木地又は荒廢地に屬するも概ね其の地質造林に適し樹木生育狀態内地と殆ど異なる所なく且造林用樹種多種なると比較的低廉なる人夫豊富なる爲造林事業を計畫するもの漸次増加せり全朝鮮に生育する約七百種の樹種中利用上重要なるもの及主要なる林産物に就て概説すれば左の如し

林相別面積

道別	林相別				道別	林相別			
	立木地	散生地	無地	立木		立木地	散生地	無地	立木
京畿道	千町 五五九	千町 六七	千町 四二	千町 一〇六	千町 七〇三	千町 一六一	千町 五二	千町 七六	千町 九九三
忠清北道	三五六	一〇七	三九	三七	七〇	八九	一〇八	九二	九九八
忠清南道	三四〇	九三	四三	二三	一、三七三	四八一	三三六	三三三	二、三二一
全羅北道	四一八	六四	三六	三八	一、一九六	四九七	二九三	二〇三	二、一八八
全羅南道	四七九	一六八	一四二	九三	一、七二〇	五一九	二五三	二九一	二、七七三
慶尙北道	一、二三三	三六	七四	四六	一、二二〇	二六五	一一八	一〇一	一、六九四
慶尙南道	六四一	一〇八	三九	六五	八五三	二、六五五	一、四五九	一、四〇三	一六、四三四
合計									

紅松 (ホンスン)

テウセンマツ (朝鮮五葉松) の俗稱にして鴨綠江流域に最も多く直径三尺以上の木材少からず其の材質は内地産扁拍材と赤松材との中間に位し木理通直、色澤佳良にして反張伸縮するこ

林産物、紅松

と割合に少く加ふるに工作を施し易きを以て漸次其の長所を認められ各種建築用材、家具用材等に多く用ゐられ最近國有林に於ける年伐採量約二十三萬一千立方米に至れり

杉 松 (サアスン)

タウヒ、タウシラベ及テウセンハリモミを併せたる俗稱にして北海道のエゾマツ、トドマツに類似し鴨綠江、豆滿江流域に最も多く直徑三尺内外の木材少からず材質に紅松に比し稍劣るも價格低廉にして工作容易なるが故に廣く建築用材、家具用材、函材、木羽板、包装用、經木原料、燐寸軸木、製紙原料等に多く用ゐらるゝに至れり國有林に於ける年伐採量約七十九萬一千立方米に達せり

落 葉 松

テウセンカラマツの俗稱にして樺太のシコタンマツに類似し鴨綠江、豆滿江兩流域に最も多く直徑三尺内外の木材少からず年輪緻密、材質強靱且耐久力に富むを以て建築、橋梁、船艦、枕木、杭木、電柱、棺材等に好適し國有林に於ける年伐採量約六十三萬九千立方米に至れり

アカマツ

アカマツは北鮮高地を除き鮮内に入る處に生育し所謂朝鮮の代表的樹種とす。不幸にして本樹種は松毛蟲の被害を被ること多く（中鮮以南に於ては特に被害激甚なり）内地に於けるが如き通直なる樹幹を見ることが少しと雖尙建築用材、土工用材として大いに使用せらるゝ外燃料の大宗として必要缺くべからざるは贅言を要せざる處なり。江原道春梁山脈の**アカマツ**は古來其の良材と蓄積の豊富を以て著名なり

赤 柏 松

イチキ又**アララギ**の俗稱にして材質の優美なること古來針葉樹中の王と稱せらる從て上等の茶棚、机、箱類、火鉢、茶器、杖、箸、櫛等の小細工に常用せられ又良材は天井板、床柱等に用ゐて雅致を極め内地に於ては容易に得難き貴重材に屬するも朝鮮に於ては北部地方に相當の生産あり

檀 木

ヲノヲレカンバの俗稱にして材質櫻材より堅く車軸材、床柱、杖、盆、度量衡器、櫛等に好適す主なる産地は江原道、平安南北道にして鮮内に於て消費せらるゝものは比較的少く大部分は車輛材として支那に輸出せられたるも最近に於ては之が輸出を制限せられたる爲年伐採量は極めて少し

ポ プ ラ

ポプラはニセアカシヤと同様明治年間朝鮮に渡來せるものにして河畔、堤塘等の土層深き土地の植栽に適す。生長極めて迅速（普通十年にして胸高直徑二十糎、樹高十五米に達す）材は輕軟にして製紙原料、燐寸軸木、經木原料、家具材等の用途に供せらるゝ外農家の建築用材、綠肥及堆肥原料として必要缺くべからざるを以て農家の重用する處なり、最近一箇年の植栽本數（主として挿木）二千萬本に及べり

ハンノキ類

全鮮四萬五千町歩に餘る砂防工事地に對し過去十數年主要砂防植栽樹種として植栽せられたるハンノキ類は昭和八年度迄の植栽本數六千四百萬本に及び之に一般植栽の分を加算するときは無慮九千七百五十萬本に達し、然も内地に於て嘗て經驗せざる旺盛なる生長を示しつゝあり（植栽後僅に十年餘にして胸高十五糎、樹高十米に達せるもの尠からず）此の情勢にして推移せんか數年を出てずして年生長量十五萬立方米に達すべく推定せられ朝鮮民有林野の主要潤葉樹木たらんとす。近來既に之が伐採利用期に入りたるを以て一般農家の燃料、簡易なる建築用材に供せられつゝあるは勿論下駄、つくりもの等の新用途に就きても銳意研究されつゝあり。

ニセアカシヤ

ニセアカシヤは明治年間朝鮮に移植せられ其の生育の迅速と萌芽力の旺盛とを以て現在にては朝鮮農村に於ける主要樹種なり。材は堅硬にして割裂性あるを短所とするも簡易な農家の建築用材、杭其の他細工物等の用に供せられ、枝葉又燃料、綠肥、堆肥原料として使用せらる。

尙最近木炭瓦斯發生用木炭として本樹種が最適なる由にて研究を進められつゝあり。昭和八年の植栽本數八十萬本に及ぶ

アベマキ樹皮

アベマキは京畿、慶北及江原の各道に廣く生育し、其の幹枝は製炭材料に粗皮はコルクとして加工し、防濕板、防音板、瓶栓、履物其の他の製造に利用せらる。而して現在の樹皮見込蓄積は一千一百万貫を越え最近の年産額は七十萬貫、三萬圓にして其の大部分は廣島に移出せらる。近年京城、釜山等に於ても之が加工場の設置を見、取引値段は京城に於て一圓五十錢内外なり

木炭

木炭は鮮内各地に生産し最近に於ける其の生産高は約二千八百八十七萬六千餘貫、二百二十萬八千餘圓の多きに達し近時内地木炭商にして朝鮮木炭の移入を企圖するもの漸く多きを加へ最近に於ては移出額三千九萬九千餘圓に達せり今後人口の増加に伴ふ木炭の需要を充當すべき使

命を有する朝鮮木炭の生産増加は極めて有望多利なりと謂はざるべからず

五 倍 子

五倍子はヌルデ（五倍子）木に生ずる副産物にして咸鏡北道を除く外各道に産するも慶南、江原及忠南の三道最も多く染料、鞣皮料、薬料として多く用ゐらる年産額は年に依り差あるも最近に於ては約一萬六千餘貫以上の生産あり

平壤栗と朝鮮栗

平壤栗は甘味と渋皮のむけ易きことに於て彼の支那栗と並び稱せられ専ら平南、平北及黄海の三ヶ道に産す。昭和八年の産額は一萬二千石、三十六萬圓に過ぎざるも目下主産道に於て夫々増産の計畫あり。近く年産五萬石に達する見込なり。主なる仕向地は東京、大阪及名古屋地方等にして最近の移出高一萬石、一石當り（平壤渡し）三十圓乃至六十五圓の間に於て取引せられつゝあり

朝鮮栗は主として京畿、平南及平北の各道に産し其の年産額は五萬八千石、八十萬圓に達す

品質不揃なるも價額著しく低廉なるを以て需要廣く内地にも相當移出せらる。京畿道楊州郡及始興郡産は品質優良にして朝鮮栗中の逸品なり

松の實

松の實は朝鮮五葉（紅松）の種子にして、江原、京畿及黃海の各道を主産地とする朝鮮の特産品なり。美味且滋養に富むを以て近時製菓用に使用せらるゝもの多く又古來より不老長壽劑として廣く宣傳愛用せらる。最近の年産額は三千八百石、八萬六千圓にして輸移出量も年々増加を來し、現在は三萬四千圓に達せり

胡桃

忠北及忠南を主産地とする所謂高麗クルミは年産額（昭和八年）二千餘石五萬二千餘圓にして古來果殼軟大風味佳良を以て名あり、爲に輓近各道に於て内外販路の擴張を期して増産計畫を樹立する向多く將來は一躍十萬石を生産せんとする趨勢に在り

漆 液

鮮産漆は其の品質甚だ優秀なるにも拘らず、採漆、販賣方法適切ならざりしたため、内地同様其の生産額は逐年漸減の傾向あり、昭和八年の生産は僅々八百餘貫一萬七千餘關に過ぎず

椎 茸

椎茸は朝鮮中部以南の各道に産し最近一箇年の總生産額約二萬四千五百貫此の價額約三萬五千餘圓に達す殊に全羅南道濟州島は其の産額最も多く製品は遠く支那及内地方面に輸移出せらる。

藥 科 植 物

古來朝鮮半島は藥草木の寶庫にして風土之に適し貴重良種に富み夙に皇漢名醫の羨望せし處なり。之等藥草木中林野に自生し其の産額多きものを列擧すれば自求（利尿、健胃消化）蒼朮（利尿、發汗、健胃消化）、細辛（頭痛、風邪）、淨羊藿（強精劑）、蔓參（強壯劑）、何首烏（強

壯劑) 桔梗根(鎮咳、祐淡劑)、咸靈仙(中風、婦人藥)、茯苓(利尿)、當歸(婦人藥、強壯劑)
 山人蔘(強壯劑)等にして昭和八年の生産額は五十七萬貫、價額約三十四萬圓に上れり

鑛 産 物

朝鮮に於ける鑛業は多種に上れるも從來操業幼稚、資金貧弱にして開發頗る遅々たるを免れざりしが施政以來鑛政の刷新を圖り且地質及鑛床の調査に従事し各種鑛物の賦存状態を闡明し豊富なる資金と進歩したる技術の移入に努めたる結果各種鑛山の開發せらるゝもの少からざるに至れり左に各種鑛物に付略述すべし

金

金は朝鮮重要鑛産物の首位を占め殆ど鮮内至る處に採掘せらるゝも就中平安北道の雲山、大楡洞、橋洞、三成、義州、新延、平安南道の成興、黃海道の遂安、笏洞、甕津、忠清南道の中央全羅南道の光湯、慶尙北道の金井、江原道の小林洪川、咸鏡南道の仁興、永興明太洞、咸鏡

北道の青岩等、各鑛山及忠清南道の稷山砂金鑛、全羅北道の金堤砂金鑛其の主なるものなり。近年財界不況打續き金鑛業の採算漸次有利となり斯業界漸く擡頭の機運にありたるが昭和六年一月金輸出解禁後金塊の海外流出夥しく遽に産金増加の必要高調せらるゝに至り同年十二月の金輸出再禁止後漸次金市價の昂騰を來したると總督府の産金奨勵施設等四圍の狀勢好轉に激成せられ異狀の活況を呈したり即ち從來稼行せる鑛山は大規模鑛山は素より小規模鑛山に至るまで事業設備を擴張整備し又は企業に着手する者等急激に増加し且つ内地資本家の進出投資も漸く活況を呈し來れり

年 次	區			主 産 地
	生 産 量	高 價 額	輸 移 出 高 價 額	
昭 和 七 年	九、七〇〇、七三八 ^五	一九、六三三、一七三 ^四	二八、二七、八八四 ^四	一〇、四三〇、四三三 ^四
昭 和 八 年	一一、五〇八、一六五	二九、三九四、四四六	三四、〇〇五、九六八	三、五七〇、四八七
				全 鮮 各 道

備考 金銀鑛、汰鑛の産額を除く砂金を含む

石炭

石炭には無煙炭、褐炭の二種あり無煙炭の全埋藏量は約十七億五千萬噸と稱せられ多く平安南道に産し海軍燃料に供せられ鮮内に於ては其儘微粉炭燃燒装置を有する工場汽罐用に、マセツク煉炭として機關車用に或は煉炭に製造せられ家庭用に燃料として重用せらる、殊に近年都市燃料、蠶室保温燃料、電化工業原料として内地の需要漸増の傾向あり。又褐炭全埋藏量は四億一千万噸と推定せられ主として咸鏡北道に産し工場、鐵道、船舶用又は暖房用に使用せらる、尙朝鮮の褐炭は含油分多く特に高價なるパラフィンを多く有する爲低温乾餾を爲して液體燃料を採集するに適せるが朝鮮窒素肥料株式會社は咸鏡北道明川郡永安に於て年十一萬噸の石炭を處理する低温乾餾工場の建設し重油ガソリンの代用燃料を産出し併せてパラフィン、メタノール、パークライト等の重要製品を産出しつゝあり、將來更に此の方面に發展するものと豫想せらる。今朝鮮内に於ける石炭の需給狀況を見るに需要高昭和七年迄は年額百五十萬噸内外なりしもの昭和八年には百九十萬噸に達し、異常の活況を呈せるが需要高の約半數は支那又は内地炭の供給に俟つ狀況にして其の自給自足を計るは常に燃料問題の解決を來すのみならず一般朝鮮

産業開發上最も喫緊の事に屬するを以て總督府は朝鮮炭の特質に鑑み其の經濟的利用の方法を試験研究し一面其の埋藏量を調査し以て其の開發を速進せしむが爲大正十一年京城府外鷲梁津に燃料選鑛研究所を設置し諸般調査實施上極力保護獎勵を加へつゝあり

年 次 別	生 産 高		輸 移 出 高		輸 移 入 高		主 産 地
	數 量	價 額	數 量	價 額	數 量	價 額	
昭 和 七 年	一、一〇四、一九四 <small>原</small>	五、九〇六、二一九 <small>円</small>	三九七、八七五 <small>原</small>	三、八五〇、一〇八 <small>円</small>	八四六、二八六 <small>原</small>	七、八七三、二五二 <small>円</small>	平南、咸北
昭 和 八 年	一、三〇六、七三四	七、一〇五、四〇六	四六九、二六五	四、六三〇、〇一一	一、〇六〇、八九一〇	七、三三三、四四九	黄海、咸南

鐵

朝鮮に産する鐵鑛は赤鐵鑛、褐鐵鑛、磁鐵鑛にして黃海道を主産地とし平安南道、咸鏡南道等に産し久しく内地製鐵所に給鑛し來りたるが大正七年三菱兼二浦製鐵所の事業開始に依り鮮内に需要せられ一面當時歐洲戰亂の爲製鐵界異常の活況を呈し内地の需要亦激増し斯業甚だ盛

賑を極めたり、戦後製鐵界の不振に伴ひ漸次不況に陥れるが昭和八年に入りて鐵需要の増大とともに市況恢復し産額漸増の趨勢を示せり。

年 別	鐵 鑛 生 産 高		銑 鐵 生 産 高		輸 移 出 高		主 産 地
	數 量	價 額	數 量	價 額	鐵 鑛	銑 鐵	
昭 和 七 年	一五、四三 ^ト	七四九、三五 ^円	一六三、五三 ^ト	四、二四、〇三 ^円	一、〇八一、九二 ^円	六、三八、六一 ^円	黄海、平南
昭 和 八 年	二五、二六 ^ト	一、三三七、六八	一六三、九三 ^ト	五、六五、六九 ^円	一、九七七、八〇	五、〇九七、〇四	咸南

銅

咸鏡南道、慶尙南道等主なる産地にして併合當時に於ける銅鑛産額は四百四噸、價額二萬一千餘圓なりしも爾來年々數千圓を産出するに過ぎざる不振の狀況を續けたりしが大正五年咸鏡南道甲山銅山が久原鑛業株式會社の經營に移るに及で頓に産額を増し同年三十萬八千餘圓を産し大正七年には粗銅三百十萬五千匁價額二百九十五萬三千圓を産出したるも平和克復後銅價暴

落し採算不可能となり遂に大正九年甲山銅山も事業を休止するに至り再び沈滞状態に陥りたるが近時銅市價の恢復及金鑛業の隆盛に伴ひ金産出の際副産物として銅産額増加の勢を示せり。

年 別	銅 鑛 生 産 高		銅 生 産 高		銅 移 出 高		主 産 地
	數 量	價 額	數 量	價 額	數 量	價 額	
昭 和 七 年	六、五四三 ^噸	三三、八二七 ^円	六九三、九六一 ^噸	三〇七、〇二七 ^円	八五八 ^噸	二、五六、三三三 ^円	平 南
昭 和 八 年	五、九二四	四一、九七五	七六四、八三五	四一七、三六八	一、〇二二	五、七三三、〇九三	

タングステン

歐洲戰爭勃發後軍事上の必要に促されタングステンの需要増加したるを以て之が発見採掘に従事する者多く、一時盛況を極めたるも、大正七年下半年以降市價低落し加ふるに需要著しく減少したる爲、一般に事業を緊縮して休山廢鑛するもの續出し、同八年末には全部休止するに至れるが昭和二年忠清北道に於ける大華鑛山再び事業に着手し、僅少なから之が産出を見つゝ

水鉛鑛

ありたるが昭和八年に入りて軍需方面の需要旺盛となり産額激増せり、現在稼行鑛山は大華、百年、谷山、箕洲及九來里の五鑛山なり、既知鑛床中江原道金剛山附近、忠清北道忠州郡及忠清南道青陽郡に存するものは其の主要なるものにして、其の他諸所に發見せられたるもの亦少からず

年次	區別		主產地
	生	高	
	數	價額	
昭和七年	五七、三五〇 <small>担</small>	三九、八四五 <small>円</small>	忠北、黃海、江原
昭和八年	一五二、五〇〇	一一七、二三四	

水鉛鑛

タングステンと共に水鉛鑛も亦歐洲大戰當時盛に採掘され、其の後需要杜絶と共に休止せるが、最近再び製鋼事業の盛んなるに伴れ、採掘者多く、全羅北道水鑛山、江原道金剛鑛山等よ

り産出し、其の産額の殆ど全部を内地へ移出し居れり

年次	區別		主産地
	生産量	高産額	
昭和七年	四、六〇〇 <small>噸</small>	五、六三六 <small>円</small>	全北、黄海、江原
昭和八年	一〇、一九二	三、八、六三三	

黒鉛

歐洲戰亂中内地製鋼事業の發展に伴ひ鱗狀黒鉛の需要著しく増加したるが爲併合當時に於ては十五萬三千圓を産出したるに過ぎざりしも大正五年には三十九萬四千圓に上り大正六年には一躍百萬圓を産出せり、然るに平和克復後錫蘭産黒鉛の輸入に壓倒せられ漸次不振となりたるが、最近市況稍回復の機運に向ひつゝあり尙朝鮮は黒鉛の世界的産地なるを以て前途大に矚目に價するものと謂ふべし

高嶺土

年次	生産高			輸移出高			販路
	数量	金額	数量	金額	数量		
昭和七年	一六、八四三 <small>町</small>	二五五、八四七 <small>円</small>	一四、七三五 <small>町</small>	六九三、六三 <small>円</small>	内地、英吉利、支那		
昭和八年	三三、六七七	四六五、六五六	二四、三二四	一、〇四六、七四	北米合衆國		

高嶺土

高嶺土は京畿道、全羅南北道、慶尙南北道、黃海道、平安南道、咸鏡南北道等の一部地方に頗る優良品を産出す、現行朝鮮鑛業令施行に至るまでは土石採取法の支配に屬したるものにして大正六年は三千餘圓の産額なりしも最近の産額は十四萬七千圓にして主として朝鮮陶磁器原料に供せられ一部は内地に移出せらる最近に於ける生産額左の如し

年次別	生産高		主産地
	數量	價額	
昭和七年	13,011 <small>担</small>	77,840 <small>円</small>	全南、慶南
昭和八年	14,930	147,096	平南、咸北

珪砂

珪砂は忠清南道、全羅南北道、黃海道及咸鏡南道の沿岸地方に産す、其の品質頗る優良にして分布廣汎なるも大正五年現行朝鮮鑛業令施行に至るまでは土石採取法の支配に屬したるものにして大正六年一萬九千餘圓を産し爾來年々産額遞増し大正十三年一躍二十五萬七千餘圓の産額ありてより漸次不振を續けつゝあり主として内地に移出し硝子原料に供せらる

大理石、水産物

四〇

年次	區別		主産地
	生産高	輸移出高	
昭和七年	数量 四三、八五六 ^噸	金額 五五、三三二 ^円	全南、黃海
昭和八年	数量 六八、八一八	金額 九六、五四五	
	数量 四三、六六二 ^噸	金額 六〇、六三九 ^円	
	数量 四三、一八三	金額 五五、九二〇	

大理石

大理石は多く北鮮地方に生産す其の品質甚だ優良にしてシヨウウキンドー及門牌、煙草入、置物、建築物用材其の他石細工等に供給し頗る好評を博しつゝあり

水産物

朝鮮は三面海を以て圍繞せられ海岸線の延長九千三百二十五餘浬に亘り地勢及海流の關係上水産物頗る豊富にして有利の漁場に乏しからずと雖古來漁政に關する基礎極めて薄弱なるのみ

ならず漁法幼稚、資金貧弱にして斯業開發遅々たりしも施政以來専ら漁獲の増進、製品改良を圖ると共に一面當業者の智識技能を啓發の漁村の健全なる發達を促進せむことを期し漁業令以下水産に關する法令を發布し漁業保護取締を周到ならしめ營業の安固を得しむると共に本府地方廳は諸般の施設を爲し専ら斯業の發達に努めたる結果漸次生産額を増加し殊に漁獲の増進と製品検査の實施とに依り輸移出品著しく増加するに至れり左に各種水産物に付略述すべし

鮮魚

鮮魚の主産地は沿岸一帯にして其の漁法の改善、漁場の開拓は通漁の増加と相俟つて逐年之が漁獲高増加し其の仕向地も鮮内は勿論内地は遠く東京、大阪及支那、滿洲一圓に及ぶに至れり最近に於ける漁獲高は左の如し

年次	區別		主産地	販路
	漁獲量	輸移出量		
昭和七年	九八四、〇六三、五二〇 ^担	九九、七〇三、八九九 ^斤	全鮮革	内地、鮮内、滿洲國
	四六、二六三、五三 ^円	五、四七三、三五 ^円		

水産物罐詰

昭和八年	一、〇〇七、二五八、〇三三	五二、三七八、一五八	八六、二五五、三九七	六、二四七、三六五	關東州、中 華民國、露 領亞細亞
------	---------------	------------	------------	-----------	------------------------

水産物罐詰

罐詰は併合當時は主として鮑罐詰の生産に限定せられたるも其の後漸次内地人の手に依り經營せらるゝに至り罐詰工場増加し目下全沿岸を通じ百餘箇所あり其の生産種類は蟹、鮑、鯖、鰻、蠔、飯蛸、貝柱等主要なるものにして其の大部分は内地及支那に輸移出せらる

年 別	生 産		輸 移 出		主 産 地	販 路
	數 量	價 額	數 量	價 額		
昭和七年	103,311 <small>箱</small>	八九九、八三 <small>四</small>	二七一、五八二 <small>打</small>	五三、〇七 <small>円</small>	咸南北、全 南北、慶南 北、江原	内地、支那 鮮内、滿洲 國、關東州 中華民國
昭和八年	147,576	1,433,033	314,362	六四、七九		

鹽

朝鮮に於ける製鹽は天日製法と在來煎熬法の二種なるも未だ鮮内の全需要を充たすに足らず
 毎年約二億萬斤内外は支那鹽の輸入に俟つの現狀にあり官營に屬する天日製鹽田は七箇所鹽田
 面積總計二千四百七十四町歩に達し在來鹽田は各道沿岸に散在するも規模小さく漸次衰退の傾
 向にあり。

年 別	生 産 高		價 額	輸 移 入 高		主 産 地
	官 鹽	煎 熬 鹽		數 量	價 額	
昭 和 七 年	三五五、七四三 <small>千斤</small>	六八、〇九九 <small>千斤</small>	一、八七七、二六五 <small>円</small>	三〇八、四一六 <small>千斤</small>	二、〇七二、四二七 <small>円</small>	京畿、平南、 北、全南、
昭 和 八 年	三三六、五〇一	六五、八〇五	二、九三八、〇〇三	三三五、〇六三	二、九二七、九七七	慶南、咸南

備考 生産價額中ニハ煎熬鹽ノ生産價額ヲ含マズ

寒 天

鹽、寒 天

朝鮮に於ける寒天の製造は併合後の新製品にして大正元年より同四年迄本府に於て試験を爲したる結果敢て内地品に劣らざる製品を産出し得たるを以て爾來民間に於て經營せらるゝに至りしも尙資金其の他の關係上著しき増額を見ず

年次	區別		生産高		輸移出高		主産地	販路
	數量	價額	數量	價額	數量	價額		
昭和七年	一三、五六三 ^担	二九、〇〇〇 ^円	三三、六六六 ^斤	四八、九〇七 ^円	全南、慶北	鮮内、内地、滿洲國、關東州、中華		
昭和八年	三元、一六五	九九、〇一五	一四、五七〇	一九、〇五七		民國		

乾海苔

朝鮮に於ける重要輸移出品たる乾海苔の製造は主に全南、慶南及黃海の三道にして十數年前迄は専ら朝鮮在來の製法に依り僅に鮮内の需要を滿たすに過ぎざりしが併合以來官民一般斯業の改善品位の向上に努めたるに依り輸移出額の激増を示せり其の品質及風味等内地品に比し何

等の遜色なきを以て内地各市場に於て頗る歓迎せられつゝあり

年 別	生 産		輸 移 出		主 産 地	販 路
	數 量	價 額	數 量	價 額		
昭 和 七 年	1,010,844 ^担	2,040,469 ^円	1,073,296 ^斤	2,140,340 ^円	全南、慶南	鮮内、内地 滿洲國、關 東州、中華 民國
昭 和 八 年	1,330,190	2,633,141	1,593,267	3,453,063	全北、咸南	

海 藻

海藻中主なるものは海蘿、眞海蘿、袋海蘿、石花菜、銀杏草、櫻草、小凝草、磯草等にして其の生産額の約半数以上は内地に移出す、大正三年海藻検査規則を發布以來昔日の面目を一新し目下中央市場に於て覇を唱ふるに至り延て内地市價を左右するに至れり最近の生産を示せば左の如し

魚肥料

四六

年 次	生 産		輸 移 出		主 産 地	販 路
	數 量	價 額	數 量	價 額		
昭 和 七 年	一、九〇八、八五五 ^貫	六六〇、〇七六 ^円	三、八七七、七八 ^斤	九三、九五四 ^円	全南、慶南	鮮内、内地 滿洲國、關
昭 和 八 年	五、〇三五、三九二	一、一四三、〇八一	三、七三八、三〇〇	一、一八二、五五〇	黄海、咸南	東州、中華 民國

魚 肥 料

朝鮮産魚肥料中主なるものは鱧、太刀魚、明太魚、鱒等の搾粕、馬尾藻、鰯、鯨白子、胴鯨等の乾製にして従來相當の産額ありしにも拘らず其の品質不良加ふるに故意を以て雜物を混入せし不正品尠からざりし爲取引上常に苦情絶えざりしも大正七年製品検査開始以來著しく之が品位の向上を來し不正品の如き其の跡を絶つに至りしを以て取引も頗る順調に進み内地市場に於て好評を博するに至れり

魚油

年 次	區		移		主 産 地	販 路
	生 産 高	輸 移 出 高	量	額		
昭和七年	六二、七五六、一九八 ^正	四、五四七、六八 ^円	八二三、六 ^百 七	三、五六七、〇四二 ^円	慶南北、全	内 地
昭和八年	八一、七四六、五三五	六、〇八七、〇六八	六四六、四九六	三、二五一、六六五	南、咸南北	

朝鮮に於ける魚油は鱈油を大部分とし明太、魚油、鯨油、鱈油等にして鱈油は鮮内及内地にて消費せられ硬化油の原料に供せらる

魚油

年 次	區		輸 移 出 高		主 産 地	販 路
	生 産 高	輸 移 出 高	量	額		
昭和七年	三五、三三三、八八八 ^正	二、五九八、七七 ^円	三一、〇九四、五 ^百 〇	一、二二八、七六 ^円	咸南北、江	鮮内、内地

乾貝類、煮乾鰹

昭和八年	四六、六九三、五五五	四、八四五、九〇〇	一六、八八五、九一九	一、〇五九、六六三	原、慶南北	
------	------------	-----------	------------	-----------	-------	--

四八

乾貝類

朝鮮乾貝は淡菜、乾牡蠣、乾鮑、貝柱、乾北寄貝、乾竹蛸等を主とし殆ど支那輸出品にして繁殖保護と製造法の改善とに依り舊時に比し産額を増加し市價の昇上を來せり

年 別	生 産		輸 移 出		主 産 地	販 販
	數 量	價 額	數 量	價 額		
昭和七年	一、五四三、〇七三 <small>斤</small>	七二九、三三三 <small>円</small>	一、三四八、七六六 <small>斤</small>	三三七、三三三 <small>円</small>	黄海、平南、北、全南、慶南、忠南	内地、滿洲國、關東州、中華民國
昭和八年	一、二六五、六四四	五〇九、四四四	一、〇六六、〇七五	三四七、八五〇		

煮 乾 鰹

煮乾鰹は朝鮮に於ける水産製品中重要なる位置を占むるものにして其の品位内地品を凌駕し之が需要地は中國、九州を始め殆ど全國に及び最近其の生産左の如し

年 次	區		年 次	區	
	數量	價額		數量	價額
昭和七年	八、八六五、〇五三 _斤	二、七八三、〇三三 _円	昭和七年	一〇、五三四、五二八 _斤	二、九九一、五二六 _円
	七、八六五、二三三	二、七五二、八二〇		九、三八一、三四四	二、九〇八、四三三
昭和八年			昭和八年		
主產地		主產地		主產地	
慶南、全北、 全南、慶北、 黃海		慶南、全北、 全南、慶北、 黃海		鮮内、内地、 臺灣、滿洲、 關東州	
販路		販路		販路	
中國、 中華民國		中國、 中華民國		中國、 中華民國	

乾明太魚

乾明太魚は朝鮮水産製品の大宗にして鮮人の必需的嗜好品なり漁法の改善と漁場の擴張と相俟つて漸次産額増加の趨勢にあり

年 次	區		年 次	區	
	數量	價額		數量	價額
昭和七年	五、九五四、五〇 _斤	一、五三七、一三三 _円	昭和七年	一〇、一六五、〇三九 _斤	一、〇三二、〇六三 _円
昭和八年			昭和八年		
主產地		主產地		主產地	
慶北、江原		慶北、江原		鮮内	
販路		販路		販路	
鮮内		鮮内		鮮内	

乾明太魚

鹽 乾 鱈

昭和八年	一三、三六、五八	三、二五六、六三	一一、六三、〇六一	一、六四、元一	咸南北
------	----------	----------	-----------	---------	-----

鹽 乾 鱈

鹽乾鱈は併合以後の新製品にして製法の改善に伴ひ内地及支那方面の需要を増し殊に大正七年製品検査の實施に依り品位の統一、包装の改良、重量の一定等を計りし爲著しく商取引を容易ならしめ内地市場に於ては北海道産を凌駕し従つて市價を漸騰し逐年産額増加の傾向にあり

年 別	生 産 高		輸 移 出 高		主 産 地	販 路
	數 量	價 額	數 量	價 額		
昭和七年	二、〇五九、三八四 ^斤	四六二、三三一 ^円	二、〇二二、六一一 ^斤	三三二、五九七 ^円	慶北、咸南	鮮内、内地、臺灣、滿洲、關東州、中國、比律賓諸島
昭和八年	一、五一四、三〇三	三六九、八七九	一、五五八、八九五	二三〇、五五四	北、黄海	

鹽藏鯖

漁獲物中鯖は其の主位を占むるものにして殊に漁法の改善に依り近來周年之が漁獲を見るに至り従つて鮮魚にて内地に移出するの外鹽藏として内地、臺灣、支那方面に仕向けらる、漁獲高は年と共に増加しつゝあり

年 次	生 産		輸 移 出		主 産 地	販 路
	數 量	價 額	數 量	價 額		
昭 和 七 年	10,003,294 ^斤	708,930 ^円	2,710,335 ^斤	135,634 ^円	慶南北、咸 南北、全南	鮮内、内地 臺灣、滿洲
昭 和 八 年	15,663,004	1,116,231	3,025,616	183,917	北、江原	國、關東州

海 蔘

海蔘は對支水産貿易中重要なるものにして品質の改善統一を圖りたる結果仕向先に於ける聲價頗に昂り需要逐年増加しつゝあり

鹽藏鯖、海蔘

乾 鰾

年 別	生 産		輸 移 出		主 産 地	販 路
	數 量	價 額	數 量	價 額		
昭和七年	三七、八五一 ^斤	四六三、八四四 ^円	二八八、六一九 ^斤	三三三、三九三 ^円	慶南、咸南	鮮内、滿洲 國、關東州 中華民國
昭和八年	二四八、九六四	三六五、三五六	二五八、七三九	二七六、六六六		

乾 鰾

本品も亦輸出重要品の一にして近來品質著しく改善せられ内地産品と匹敵するに至り益販路擴張せらるゝ傾向にあり

年 別	生 産		輸 移 出		主 産 地	販 路
	數 量	價 額	數 量	價 額		
昭和七年	一、七九三、四七〇 ^斤	四一五、九五三 ^円	二、三六七、一八六 ^斤	四〇〇、〇〇三 ^円	全南、黃海	鮮内、内地

昭和八年	二、五三七、八〇六	六七二、〇九一	三、九九三、八七〇	五九三、八〇四	平南北	滿洲國、關東州、中華民國
------	-----------	---------	-----------	---------	-----	--------------

乾王筋魚

王筋魚は殆ど全部本品に製造せらるゝものにして時に豊凶あるも二三年來産額著しく増加せり、小羽の良品は内地方面に需要せらるゝ外大部分は神戸經山臺灣及支那方面に仕向けられつゝあり

年 別	生 産		輸 移 出		主 産 地	販 路
	數 量	價 額	數 量	價 額		
昭和七年	二、九三六、六九二 <small>斤</small>	五三三、六〇六 <small>円</small>	二、七五五、六七九 <small>斤</small>	三〇三、三三八 <small>円</small>	慶北、江原	鮮内、内地、滿洲國、關東州
昭和八年	二、三四五、三四四	四八六、三四四	二、六七三、五二九	三三九、七七七	黄海	東州

工 産 物

朝鮮の工業は往時高度の發達を遂げたることありと雖爾來次第に衰退し繼に機業、窯業、製紙業、醸造業、金屬工業等の家内工業又は小工業に其の餘影を止むるに過ぎず而も技術幼稚、器具不完全、製品亦粗惡にして日常生活必需品の大部分は之を移入品に俟つの狀況なりしを以て當局に於ては京城に中央試験所を設け工業専門學校を興し又各地に工業傳習所を設置し以て利源の開發、工業教育機關の整備を圖り智識技能の養成に資する等夙に斯業の指導獎勵に努むる所あり其他各種工業に對し傳習企業に關する金品の補助及技術の指導或は原料の増産及蒐集、製品販路の斡旋等獎勵上必要なる諸般の施設を遂行し事業の成功を援助し尙各種産業に關する調査研究を行ひ其の結果を公表して一般の參考に供する等銳意工業の發展に努め來れり、其の結果技術の進歩、製品の改良年と共に加はり且一般に對する工業思想著しく啓發せられ朝鮮人にして家内工業の舊習を脱し工場組織を以て事業を經營せんとする者漸次増加する傾向に至れり左に各種工産物に付略述すべし

生 絲

生絲は從來極めて幼稚なる繰絲法に依りしが近年繭の生産増加に伴ひ足踏又は機械製絲の勃興を促し最近機械製絲工場六十九箇所の設立を見るに至れるが現在主なるものは京城の鐘淵紡績會社京城工場、片倉製絲紡績株式會社京城製絲所、岩村製絲所、朝鮮製絲株式會社、大田の郡是製絲株式會社大田工場、大邱の大田組製絲株式會社、片倉製絲紡績株式會社大邱製絲所、朝鮮生絲株式會社、咸興の片倉製絲紡績株式會社咸興製絲所、清州郡是製絲株式會社清州工場、光州の全南道是製絲株式會社、鐘淵紡績會社光州製絲工場、鎮海の東洋製絲株式會社鎮海工場、平壤の東洋製絲會社平壤工場、沙里院の東洋製絲株式會社沙里院工場、全州の片倉製絲紡績株式會社全州製絲所、全北製絲株式會社、鐵原の鐘淵紡績株式會社鐵原工場等にして總て輸出向生絲の製絲に従事し其の生産百五十九萬疋以上に達するに至れり

年 次	生 産 高		輸 移 出 高		主 産 地
	數 量	價 額	數 量	價 額	
昭 和 七 年	一、八七、一〇六 <small>疋</small>	一四、六〇〇、〇六八 <small>円</small>	一、四八、七五四 <small>斤</small>	一、六六、三七四 <small>円</small>	京畿、忠南北、全

生 絲

絹 布

五六

昭和八年	一、五九五、八八一	一六、〇五三、一八四	一、八六四、七五九	一四、二八、〇九二	南北、慶南北、黃海、咸南、江原
------	-----------	------------	-----------	-----------	-----------------

絹 布

絹布は多く在來の製織機に依る鮮人向粗紬なるもの多きも近年改良織機を以て其の優良品を製織するもの漸次増加し尙一部に於ては高級の絹布を製出するに至れり特に年々多額に輸入せられたる鮮人向支那絹布が贅澤品稅實施以來殆ど影を潜めたるに依り之が代用品を鮮内にて製織せむとする企業の傾向あり製品は鮮人向紬、羽二重、官紗、緞縐子の類にして最近年産額著しく増加したりと雖尙六百二十一萬餘圓は之を輸移入に俟つの状態にあり將來生絲の増産に伴ひ鮮人向絹布のみならず内地人向絹布の製織に付相當の發達を見るべし

昭和七年	小 幅 物	種 別	區 別		輸 移 入 高	主 産 地
			年 次	種 別		
11	11	11	數 量	生 産 高	1,338,348	京畿、全南、慶北
			價 額	額	3,100,933	
					338,559	

昭和八年	小 幅 物		三、五三、六〇五 一九七、五五七	六、二五、八七九	平南、平北、咸南
------	-------------	--	---------------------	----------	----------

綿 布

綿布は古來手紡綿絲を以て「イザリ」機に上せ副業的に製織せる小巾白木綿にして地質粗硬なりと雖地厚くして保温耐久力に富む然れども近年進で紡績綿絲を使用するもの増加し同時に改良手織機、足踏織機、動力織機を使用し京城、釜山、大邱、開城等に於ては工場組織を以て經營を爲すもの多きを加ふるに至れり尙釜山に朝鮮紡織株式會社、永登浦に京城紡織株式會社工場ありて「シーチング」の製織行はる、然れども總生産は未だ僅に約一千五百萬圓にして鮮内の全需要を充たすに足らず毎年之を輸入に俟つの状態にあり

年 別	種 別	生 産		輸 移 入 額	輸 移 出 額	主 産 地
		數 量	價 額			
昭和七年	小 幅 物		五、三九四、一九 八、五五五、八三三	三〇、二四、六三一	六、五〇七、〇八一	京畿、全南 慶北、慶南

綿 布

苧布及麻布

五八

昭和八年	小 幅 物	六、一五四、九一三 九、六七七、九一六	四四、九四九、五二五	六、二〇四、八六三	平南
------	-------------	------------------------	------------	-----------	----

苧布及麻布

麻布は總て在來織機に依り手紡絲を以て殆ど農家の副業として製出せられ夏季一般朝鮮人の着用する衣服料に供するのみならず喪服及壽衣として着用せらるゝ慣習なるを以て其の需要多く従て鮮内到處大麻及苧麻を栽培し製織亦全鮮各地に普及發達し頗る精功なるものを産出する然れども尙鮮内の需要を充すに足らず年々三百萬圓内外は之を滿洲支那方面より輸入しつゝあり

年次	區別	生産高		輸移入額	主産地
		數量	價額		
昭和七年		反	五、八七九、七五二 円	一、四九七、四三七 円	全北、忠南、慶北
昭和八年			七、〇六二、三二〇	三、四一九、九八一	慶南、江原、咸南

靴 下

靴下製造業は朝鮮に於ける好適の家内工業として全鮮到る所に普及發達し其の製品の多くは廉價堅牢を第一とする日常向のものなるも洋靴、護謨靴の普及に隨ひ需要は漸次旺盛となり生産額亦年々激増の趨勢に在り近年技術の進歩に伴ひ毛絲、絹絲、瓦斯絲等の原料に由る高級品の製造又顯著なるものありて外來品と市場に其の聲價を争ふに至れり、最近滿洲人の需要旺盛となり輸出逐次激増の趨勢にあり

年 次	區 別	生 産 高		移 入 高	主 産 地
		數 量	價 額		
昭 和 七 年		一、四九、八五五 <small>打</small>	一、六八二、七七六 <small>円</small>	三三三、六五〇 <small>円</small>	平南、京畿、慶
昭 和 八 年		一、八〇、五四四	二、三六、四八三	四六五、九三四	南

金 屬 製 品

靴下、金屬製品

朝鮮往古の金屬器製作技術は極めて優秀なるものにして多數の銘作を出せるも李朝に至りて振はず爾來小規模の家内工業又は副業として營み來りたるが朝鮮人は古來眞鍮製の食器、金鹽火鉢、便器等を使用するを以て其の製作に従事する者各處に多く鐵器類としては鍋、釜及家具用金物を主要なるものとし最近の生産額百八十三萬七千餘圓、指輪、笄、簪等の金、白及銀の製品は百五十八萬一千餘圓又眞鍮製品は百三萬三千餘圓にして各處に製作さるゝも加工彫刻の見るべきもの尠し京城の美術品製作所は金銀器、銅器、青銅器等の古代美術を復興し相當精巧なるものを製出す

年次	區別	生産高	輸移入額	主産地
昭和七年		六、三三、八八 ^四	一三、六四六、六六三 ^四	京畿、慶南、咸南
昭和八年		九、一〇八、三六一	三七、〇一一、八三三	

陶磁器

朝鮮は到る處優良なる陶土を多量に賦存するを以て原料より見る時は最も有望なる窯業地と

稱し得べく古來高麗燒の如き名聲噴々たる逸品を出したるも其の後斯業漸次廢頽するに至りたり本府は始政以來原料の調査を爲し獎勵及試験の施設を充實し時勢の進歩と相俟つて品質の向上と産額の増加を圖るに努めたる結果最近に於ては約二百十五萬餘圓を算するに至れり然れども尙改良發達の餘地尠からず、鮮内到着處小規模の工場設けられ又釜山には日本硬質陶器株式會社分工場ありて輸所向硬質陶器の製造に従事す

年次	區別	生産額	輸移入額	輸移出額	主産地
昭和七年		一、八三五、二四〇 <small>円</small>	二、三四三、〇八九 <small>円</small>	二五九、九三九 <small>円</small>	京畿、全南
昭和八年		二、一五三、六〇〇	二、九二二、八三四	五三六、六二四	慶北、慶南

硝子製品

朝鮮に於ける硝子工業は今尙幼稚にして燧類、ホヤ、コップ等の簡單なる製品を出すに過ぎず然れども硝子原料は南鮮沿岸及諸島或は西北鮮沿岸及諸島に豊富に存在し品質亦優良にして

且採掘運搬共に容易なる位置に存するのみならず洗滌粉碎等何等加工することを要せずして直に原料として使用し得べく斯業の前途頗る有望なるものとす

年次	區別		主産地
	生産額	輸移入額	
昭和七年	三八〇、七九五 <small>円</small>	一、七四、〇九〇 <small>円</small>	京畿、慶南、平南
昭和八年	三五一、七四〇	二、六九、二九五	

セメント及同製品

朝鮮に於ける「セメント」の需要は逐年増加せるも之が供給は従來内地及滿洲に仰ぎたりしが小野田セメント株式会社は平壤府外勝湖里に大正八年支社を設置し工場設備を竣へ事業を開始せり、附近は石灰石及粘土等の諸原料豊富なるを以て逐年著しき發展を遂げ更に昭和三年に於て咸鏡南道文川郡に工場を設けたり其の一箇年の生産高二十四萬八千噸に達し、鮮内の需要に

應ずるの外滿洲、支那方面に輸出するに至れり

セメント瓦、セメント管等の製品類も亦土木建築の近代的發達に伴ひ益斯業の隆盛を極め前途有望なる事業なりとす

年 次	セメント生産高		セメント製品生産高		セメント移入額	主産地
	數量	價額	數量	價額		
昭和七年	二三、三八七 _七	五、三四、六九二 _四	—	五七八、四七五 _四	二、三〇六、五九八 _四	平南、咸南
昭和八年	二四八、九九四	五、六二五、四七〇	—	七六六、九五—	三、三四八、五四三	

石 鹼

朝鮮人は元來石鹼を使用せざる習慣なりしを以て從來之が製造業も殆ど稀なりしが近時鮮人間に於ても化粧用、洗濯用として石鹼の使用は殆ど各家庭に普及し従つて京城、仁川、釜山及各地の工場に於て製造せらるゝに至り特に其の有望なるは洗濯石鹼にして鮮人間の需要逐年増

植物油脂

進し最近化粧石鹼と併せて年産額約八十萬圓を算するに至れり尙原料豊富にして發展の餘地多く將來有望視せらる

種別	昭和七年		昭和八年		輸移入價額	
	生産量	高價額	生産量	高價額	昭和七年	昭和八年
化粧用	五五、五九五 <small>打</small>	五五、五九五 <small>円</small>	三九、三三〇 <small>打</small>	三九、三三〇 <small>円</small>	一、五二二、一九六 <small>円</small>	一、八七九、〇〇〇 <small>円</small>
洗濯用	四、二四八、〇四六 <small>打</small>	七二七、六八五	四、八七七、九四八	七八二、三八		
其他	一七、一三五 <small>打</small>	一六、〇三五		一一、一九六		

植物油脂

朝鮮に於ける植物油としては胡麻油、荏油、棉實油、大豆油、蓖麻子油、椿油、麻實油等にして此の中主なるもの、最近の産額は胡麻油百二十六萬四千餘圓。荏油六十萬三千餘圓、蓖麻子油二十五萬三千餘圓、棉實油六十一萬九千餘圓にして多く食料或は燈用に供す其の生産未だ

大ならずと雖原料の産出尠からざるを以て其の發達を企圖すべき事業に屬す、就中棉實油は將來益々增收せられむとする棉花の生産に隨ひ原料たる棉實の生産を増加するに依り特に有望なりとす

年 別	生 産 高		移 出 額	輸 移 入 額	主 産 地
	數 量	價 額			
昭 和 七 年	六、七〇八、七〇七 ^庄	二、九八〇、五六九 ^圓	三三四、三六七 ^圓	六八、一七五 ^圓	京 全
昭 和 八 年	八、一八三、九〇七	三、九三八、三五	四〇七、九一六	六二、五四〇	京 全 黄 南 蒙 海

動物油脂

動物油脂として主なるものは牛脂、豚脂、鯨油、鰵油等にして最近の年産額は牛脂六十六萬五千餘圓、豚脂二十三萬餘圓、鰵油三百九十八萬六千餘圓等にして近年需要の増加と共に將來を有望視され殊に牛脂、豚脂は石鹼、人造バター等の製造原料として鮮内の需要を充す外年々

二百萬圓内外の移出を見るに致れり

年次	區別		移出額	主產地
	生産量	高價		
昭和七年	二九、四三五、八五九 ^圓	二、三三三、九七〇 ^圓	一、二五三、一六四 ^圓	全 鮮
昭和八年	四三、六六六、六九九	四、三六七、九五五	一、三〇一、九五五	

護謨製品

護謨製品工業中の主要製品は鮮人向護謨靴にして當初内地製品の供給に俟ちつゝありしが在來履物に比し價格低廉にして比較的耐久力に富み且體裁良くしく晴雨兼用其の他の關係上全く鮮人の嗜好に適し今や全鮮如何なる山間僻地と雖普及せざるなく爾來之が製造業は内鮮人企業家の着目する所となり大正八年新規勃興以來長足の進歩發展を遂げ最近に於ては支那人向きとして滿洲方面に輸出せらるゝに至れり尙近時護謨長靴、地下足袋等の製造を開始したるに好評

を博し内地製品の移入を妨遏することに速きあらざるべし

年 次	區		輸 出 額	輸 移 入 額	主 産 地
	護謄靴其ノ他ノ履物	其ノ他ノ製品			
昭和七年	數量	價 額	數量	價 額	平
	—	四、七五二、八二〇 <small>圓</small>	—	二〇一、六七四 <small>圓</small>	平
昭和八年	數量	價 額	數量	價 額	慶
	—	六、九三三、〇六四	—	八八、九六六	京
			四三、七八八	一、九五五、〇〇六 <small>圓</small>	南
				八二四、六二六	南

朝鮮紙

朝鮮の製紙業は起源古く北鮮の一部を除く外全道に普遍すれども慶尙北道、慶尙南道、全羅北道等を主産地とす往時製品の優秀なるものは貢物紙として支那王朝に貢獻せられてより一般朝鮮紙に對する需要を喚起し早くより支那に輸出せられたる等朝鮮に於ける在來工業中機業に亞ぐ重要な地位を占むるものなり、朝鮮紙は純楮製なるを以て其の質強靱を特長とし窓紙、包紙等特殊の用途を有し滿洲方面へ輸出する外内地各事業家の着目する所となり、明治四十四年

三十八萬餘圓なりしも最近に於ては約二百十八萬餘圓を産するに至れり

年次	區別	生産高		輸出額	主産地
		數量	價額		
昭和七年		九六、三五 <small>肆</small>	一、六三八、八五 <small>四</small>	四八、一九九 <small>四</small>	全慶
昭和八年		一一一、〇九四	二、一八七、二七四	七四、一九四	全慶 南北

皮革及同製品

製革は朝鮮に於ける重要な工業の一にして永登浦の朝鮮皮革株式会社、大田の大田皮革株式会社は相當規模大なる工場を有す又原料牛皮の産額は年約四百餘萬斤にして製革業は原料の豊富と販路の有望、勞銀の低廉等事業發達の要件具はり居れり然れども此の大量は到底鮮内の製革工場に於て處置すること能はず年々生皮、鹽乾皮の儘内地及支那其の他に輸移出せるもの尠からず

年 次 別	製革		製品		牛皮輸出高		主 産 地
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
昭和 七 年	—	一、三四、四一九 ^四	—	一、七四九、九六二 ^四	四、五四八、八二三 ^斤	一、四八九、三三三 ^四	京 畿
昭和 八 年	—	一、四〇三、七〇三	—	二、三五二、三六六	三、八四〇、九三七	一、四二六、二七一	

煉炭コークス

煉炭は豊富に埋藏せらるゝ、鮮産煙炭を原料として火力強烈にして火持ち良く石炭薪炭に比し経済的なるを以て家庭用、汽罐用、暖房用に供せらるゝ、外近時化学工業原料に使用せらるゝ等其の用途頗る廣汎に亘る、平壤に於ける海軍燃料廠の官製煉炭の外民間に於ても製造盛にして需要の増加に伴ひ生産數量は逐年激増しつゝあり

コークスは瓦斯製造の副業物なるが之が必要も亦逐年普及しつゝあり

年 別	煉炭生産高		コークス生産高		主 産 地
	數量	價額	數量	價額	
昭和七年	一萬、三七 ^噸	一、九七、六一 ^円	二二、四八 ^噸	二、三七三、〇九三 ^円	平 京 慶
昭和八年	一萬、六五 ^噸	二、〇〇五、六〇四	二二、〇、二五 ^噸	二、二五八、九五五	南 畿 南

木製品

木理通直、材質良好なる各種用材頗る豊富なるを以て木製品工業も逐年發達し來り殊に和洋家具の如きは形態、色彩、意匠等の研究、製作技術の進歩と共に相當精巧なる製品を産出し漸次隆盛に向ひつゝあり、鮮人向家具は朝鮮獨特の雅味を有し工藝的價値に富めるを以て内外人は好評を博し居れり

年次	區別		家		具		其		他		輸移入額	主產地
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額		
昭和七年	—	三、四一八、二〇二	—	一、六〇三、二〇六	—	一、二〇六、五六	—	—	—	—	—	京畿、慶南
昭和八年	—	三、〇二五、八三五	—	二、九五三、〇五一	—	二、七九、〇二四	—	—	—	—	—	京畿、慶南

酒類及醬油

朝鮮に於て在來醸造せられたる酒は濁酒、藥酒、白酒、燒酒、過夏酒等種々の名稱を有すれども其の品質優良なるもの多からざりし爲朝鮮人にのみ需要せられ内地人は一般に内地酒を賞用するの狀況なりしが歐州戰爭勃發以來内地品の入荷漸減し米價の騰貴及需要の激増等相俟つて酒價日々昂騰し遂に醸造界の發展を促進するの機會を得るに至り爾來當業者は相俱に品質の改善向上、産額の増加を計り工場を増設擴張、資金の充實、販賣機關の合同等相續で行はれ一面朝鮮清酒品質の顯著なる向上と價格の低廉なるとに依り最近は燒酎一千五百三十四萬餘圓、

小麥粉

藥酒四百四十三萬餘圓、濁酒二千五百三十六萬餘圓の生産を見るに至り年々内地酒の移入量を減少すると共に支那及滿洲方面に輸出せらるゝもの漸次増加の趨勢に至り尙醬油の醸造高も亦年々増加し今や鮮内の需要を充して輸移出を爲すの餘力を有する迄に發達せり

年 別	清		酒		醬油及溜		主産地
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
昭和七年	110,590 <small>道</small>	4,794,845 <small>圓</small>	273,362 <small>圓</small>	1,160,556 <small>圓</small>	908,203 <small>道</small>	3,377,743 <small>圓</small>	京畿、全南
昭和八年	162,908	5,174,797	147,880	1,128,384	3,321,988	4,299,339	慶南、平南

小麥粉

小麥粉の鮮内消費は相當多量に上り之を輸移入量に就て見るも毎年約六千萬斤以上の多量に上り食料品として重要な地位を占め居れり然るに從來鮮内に於ける小麥粉の製造は内地人及支那人に依りて極めて小規模に經營せらるゝに止りしを以て夙に世人の注意を喚起したるが大

正六年鎮南浦に滿洲製粉株式會社分工場設立せられ大正十年京城に豊國製粉株式會社の設立を見るに至り鮮内に於ては麵類製造用として最も多く菓子、麵麩用の需要は將來増大すべく豫想せらる

年 別	生 産		高 輸		移 入		主 産 地
	數 量	價 額	數 量	價 額	數 量	價 額	
昭和七年	三九、〇四八、一三〇 ^担	五、一五七、七〇 ^円	四五、〇〇〇、三九七 ^斤	三、七七四、四一六 ^円			京 慶
昭和八年	三七、九七二、三〇六	六、六七、六九三	四三、二六四、九二一	三、九八九、五三三			平 慶
							北 畿

砂 糖

朝鮮には從來砂糖の生産なかりしも大日本製糖株式會社は臺灣、爪哇より粗糖を輸入し精糖を製造し最近約六百四十九萬圓の生産あり近時民度向上に伴ひ其の消費逐年増進の趨勢にあり

菓子

菓子の生産額は工産額中主要なる地位を占め文化の伸展、民度の向上に伴ひ需要も亦漸次増加し各種菓子の生産を見るに至れり就中京城菓子株式會社製品は今や内外品に劣らざる良品を産出し内地及滿洲へ輸移出するに至れり

年次	區別		輸移入額	主產地
	生産量	生産高		
昭和七年		六、七二、九五〇 ^円	二、四六四、八二九 ^円	京畿、慶南
昭和八年		六、九七三、三〇四	二、九三九、九五二	

麵類

麵類は古くより鮮人間に於ける副食料として主に自家用生産なりしも近時之が製造は機械製

造に依るに至り品質著しく向上し生産高も亦激増し内地よりの移入を防遏しつゝあり

年次	區別		生産量	生産高	輸移入額	主産地
	数量	金額				
昭和七年	九、六四、二四 ^五	一、七六、九七 ^四	七〇七、七六 ^五	一二三、六四 ^四	京	
昭和八年	一〇、一〇九、八四 ^三	一、七三、六七 ^四	—	一三〇、三三 ^七	畿	

麴子

小麦を主原料とする麴子は古來より鮮人間唯一の嗜好物たる濁酒の醸造原料として各自製造し來りたるも近時之が製造は免許を要することゝなり特に最近は集約的に大量生産を爲さしめんとし各地に麴子組合等の設置を見るに至り著しく品質を向上し將來濁酒の品質改良上極めて有效なるものとし期待せられつゝあり

竹製品

年次	區別			主產地
	生産量	高輸	入高	
	價	額	價	額
昭和七年	六、五六、七六 ^四	一七、〇七 ^九	二、七六 ^四	全鮮
昭和八年	三、六二、〇三四	—	—	

竹製品

竹製品は南鮮地方を主産地として相當技巧優秀なるものを製作するが就中全羅南道靈巖の梳櫛、羅州の簾、籠類、潭陽の梳櫛、簾、農笠、農具類及羅州、光州の扇子、團扇等は其の名最も高く梳櫛の如きは全鮮の需要を充すと共に近年内地より注文尠からず又支那滿洲方面にも輸出す、團扇、扇子は朝鮮在來竹製品中比較的精巧にして且進歩したるものなるを以て内外人に歡迎せられ一種の土産物として聲價を博しつゝあり

年次	區別	移入額		主產地
		昭和七年	昭和八年	
竹製	品	七六、一九五	七九、六五	全北、全南
	子	一一三、五七〇	一二三、八九三	
團扇	扇	五三、五三三	六七、七二五	全北、全南
			一二四、三六〇	

杷柳製品

原料杷柳は主として農家の副業として鮮内到處に栽培せられ從來自家用の農具類を製作したるのみなりしが近年慶尙北道大邱、忠清北道公州、京畿道鷲梁津等に於て柳行李、パスケツト、果物入等と優良品を製作するに至り尙各地に栽培するもの年と共に益増加しつゝあるを以て將來重要な産物の一たるに至るべし

年次	區別		移入高	輸產地
	生産量	生産高		
昭和七年	—	一六八、〇九 ^四	五〇、六六 ^四	黃海、慶南北、平南北
昭和八年	—	一六五、三六	五九、五五	咸南、京畿、忠南、江原

莞草製品

朝鮮に於て在來生産せらるゝ筵蓆中其の品質と用途とに於て重視すべきものは莞草筵なりとす其の原料莞草は朝鮮特有の生産物にして表皮を剥ぎ之を細裂し其の儘或は染色を施したる後各種の製品に編織せらるゝものにして其の外観高雅、素質頗る強靱なり大正九年以來朝鮮産業貿易株式會社は京城に工場を興し専ら本草を利用して新規なる筵蓆竝靴、スリツパ及内地人向疊表等の製造を開始し又慶尙北道義城郡附近は莞草の生育に適し生産尠からざるに依り組合組織を以て疊表を製織し近時内地及外國に輸出するに至れり將來益有望視せられ、最近に於け

る莞草筵の生産左の如し

年次	區別	生産		主産地
		数量	金額	
昭和七年		八九七、〇二四 <small>枚</small>	六八七、一七三 <small>円</small>	京畿
昭和八年		一、〇三二、九四四	八九五、五八九	慶北

天日草製品

原料は平安南道、黄海道に多産し農家の副業として製作され纖維強靱屈曲自在なるを以て編物となすに適す、近時技工の進歩と共に本品は草の自然色と編方の細緻巧妙なる爲特殊の趣味を發揮し内外人の嗜好に適し販賣擴大しつゝあり

漆器

天日草製品、漆器

朝鮮の漆器と稱するは平塗及螺鈿漆器にして平塗は膳、箆、椀等を主とし之等は各道に生産され單に漆の自然色を顯したる普通平塗にして多く鮮人の需要に充つ螺鈿漆器は古來よりの傳統的名器にして螺鈿貝の厚きを特長とし雅趣あるを以て鮮人上流の家庭に使用せらるゝと共に近時内地及外國等へ輸出せらるゝもの尠からず目下製造者は京城其の他に於て各鮮人工場に製造せられ盆、硯箱、會席膳、菓子器等優美華麗を以て聞ゆ元來漆樹は全道に亘りて分布せられ就中平北、江原、忠北、慶尙南北各道に多く生育状態良好なるを以て内地式採漆法に依り獎勵する時は漆器の前途有望なりとす

年次	區別	生産額	移入額	主産地
昭和七年		二八一、五四四 <small>円</small>	四三八、二五三 <small>円</small>	京畿、慶南
昭和八年		三〇〇、七四五	四三一、〇九六	

石 器

朝鮮は玉、蠟石、大理石等の産多く之を材料として茶器、卷簾入、灰皿、硯、筆筒、文鎮、印材、置物、鍋及釜等の細工品を製造す細工は精巧ならざるも雅趣に富み土産品として内外人に需要尠からず就中海州及藍浦の硯石、長城、端川、城津の鍋、釜及卷簾入等一般の嗜好に適す其の技術の進歩に依り漸次改良せられ益販路を擴張するに至れり

年 次	區 別	生 産 高		主 産 地
		量	價 額	
昭 和 七 年	—	—	二〇五、三三 ^四	京 畿、全 南、慶 南
昭 和 八 年	—	—	二七、二七	平 南、咸 南 北

人 蔘

朝鮮は到る處多少の人蔘を栽培するも就中優良なるものは京畿道開城附近の産にして古來高

輸移出入品額港別

港別	昭和八年		昭和九年	
	輸移出	輸移入	輸移出	輸移入
仁川	四三,〇六六 _{千円}	七五,五七三 _{千円}	六〇,二二八 _{千円}	一〇〇,一三二 _{千円}
京城	二,一四三	三〇,九六一	二,六七六	三五,八九四
群山	三七,五九四	一三,八〇四	五五,九五〇	一八,四四二
元山	八,九八三	一五,四七四	五,七五四	一八,六七六
城津	二,八四四	四,四三〇	三,二七六	四,八五五
清津	九,七六九	一五,八三一	二,九二二	二二,五五四
雄基	二,八七四	八,二四七	八,三九三	一三,三四四
南陽	三,一〇六	一三六	三,三九〇	二,四一一
計	一八八,六三八 _{千円}	二二二,一〇四	二二〇,二二八	二八〇,三三九 _{千円}

輸移出入品價額港別

八三

輸移出入・價額港別

三	峰	一、二〇五	一六三	一、三六八	六五三	一〇三	七五六
會	寧	四八六	七三八	一、三四	二五八	一、〇六七	一、三三
釜	山	八八、五七六	一三九、九八四	二一八、五〇〇	一〇四、〇四三	一六五、三九四	二六九、四五六
木	浦	一八、四六二	一〇、〇六六	二八、五二八	二二、五六三	一一、六三三	三四、一九四
大	邱	二二八	三、〇九三	三、三二一	五一九	三、七六四	四、二八
馬	山	五、六三五	二、七三八	八、三七三	八、四五二	三、五四四	一一、九九五
新	州	二八、九三六	三八、九〇三	六二、八三九	三〇、五三四	四二、六一〇	七三、一四四
龍	浦	四、八一八	四、一五三	八、九七一	五、五四五	三、九六八	九、五二三
鎮	浦	六三、三四〇	二七、四九一	八九、八三一	七七、〇三〇	三七、九一八	一一四、九四八
平	壤	二、八三四	一三、〇〇三	一五、八三七	三、一六九	一三、五七二	一六、七四一
其	他	四四、七七七	一九、四〇〇	六四、二七	六〇、一六	二八、二七一	八八、三八七
合	計	三六八、六二七	四〇四、一八五	七三二、八一三	四六五、三六七	五一九、一四九	九八四、五二七

備考 合計が内容に符合セザルハ千圓未満切捨ノ關係ニ依ル

輸移出入品價額三年對照

年次區別	輸移出	輸移入	合計	輸移入超過
昭和七年	三二一、三五四、〇五〇 ^四	三三〇、三五六、〇一六 ^四	六三一、七一〇、〇六六 ^四	九、〇〇一、九六六 ^四
昭和八年	三六八、六二七、七三三	四〇四、一八五、四六〇	七七二、八一三、一八二	三五、五五七、七三八
昭和九年	四六五、三六七、四三五	五一九、一四九、九三〇	九八四、五二七、三六五	五三、七八二、四九五

會社一覽表

(1) 朝鮮ニ本店ヲ有スル會社

輸移出入品價額三年對照

會社一覽表

種次	年別		昭 和 六 年	昭 和 七 年	昭 和 八 年
	別	別			
合名會社	社數	136	172	156	
	出資金	10,393千円	8,486千円	10,207千円	
合資會社	社數	1,033	968	1,171	
	出資金	26,959千円	23,956千円	35,506千円	
株式會社	社數	864	1,019	950	
	公稱資本金	628,686千円	647,132千円	663,758千円	
拂込資本金	社數	1	1	1	
	拂込資本金	32,874千円	347,284千円	52,977千円	

會社一覽表

全羅北道	五	九	—	八	八	一五七	江原道	二六	元	—	二	六六
全羅南道	一一	六六	—	三〇	二七	咸鏡南道	六〇	五九	—	一三	一三三	
慶尙北道	九二	一三	—	九	三四	咸鏡北道	四九	五三	—	八	一〇九	
慶尙南道	一四	三六	—	元	四〇	總計	九五〇	一、一七二	—	一	一五八	二、二八〇

(3) 朝鮮ニ本店ヲ有スル會社業態別數

年次	農林業	商業	工業	鑛業	水産業	銀行及金融業	運輸業	瓦斯及電氣業	土木請負業	其他	計
昭和六年	八五	七三三	五六六	一四	三三	一三九	二〇五	五七	—	二五四	二、〇三三
昭和七年	九三	七六九	五四〇	二三	三三	一四二	三二一	五四	—	二九五	二、一五六
昭和八年	二三	八二一	五八〇	二六	三七	一三三	三三〇	五三	二二七	一八八	二、二八〇

備考 昭和六年、昭和七年ノ土木請負業社數ハ其ノ他ニ含ム

(4) 朝鮮ニ支店ヲ有スル内地又ハ外國會社業態別數

(但シ昭和八年末現在鮮内支店數ヲ示ス)

區別	農林業	商業	工業	鑛業	水産業	銀行及 金融業	運輸業	瓦斯及 電氣業	土木 請負業	其他	合計
昭和七年末	四三	二三	三〇	一五	三	一五	一五	五	七	一七	一六五
昭和八年末	四四	二七	三三	一六	五	一三	一〇	五	七	一四	一六二

備考 出張所又ハ工場ニシテ實質的ニ支店ト同一ナルモノハ之ヲ支店トシテ取扱フ

工場一覽表 (昭和八年末現在)

種別	工場數	職工數	生産額
紡織工業	二六六	二〇、四三三	六、七三二、二三三 ^円
金屬工業	二二九	三、六七二	五、五三五、九七一
機械器具工業	二七三	三、九六七	三、〇一〇、四一六

工場一覽表

工場一覽表

九〇

窯業	三〇五	五、一八〇	八、七二九、二一〇
化學工業	八二〇	二〇、八八三	四八、七三七、五七〇
製材及木製品工業	二〇一	三、二三四	九、九五〇、六八一
印制及製本業	二五六	五、〇三五	九、五四九、四六八
食料品工業	二、一八三	三二、二九三	五〇、四〇〇、〇一一
瓦斯及電気	五一	七二四	一〇、九八六、七四五
其他ノ工業	二四五	四、〇三三	五、一四四、三〇一
總額	四、八三八	九九、四三三	一九〇、五三三、六〇七

備考 本表中金屬工業ノ金屬精鍊及材料品ハ三十人以上ノ鑛夫ヲ使用スル設備ヲ有シ又ハ常時三十人以上ノ鑛夫ヲ使用スル工場其ノ他ハ五人以上ノ職工ヲ使用スル設備ヲ有シ又ハ常時五人以上ノ職工ヲ使用スル工場トス(官營工場ヲ除ク)

市場一覽表 (昭和八年末現在)

種別	第一市場		第二市場		第三市場		合計
	公設	私設	公設	私設	公設	私設	
設別	公設	私設	公設	私設	公設	私設	
市場數	一、四三二	五	一八	二	一五	二六	一、四九七
開市回数	一〇五、九九九	八九〇	六、〇九九	七三四	四、九九八	七、六三四	一二六、三四五
農產物	一〇六、八八四	四三三、七三三	一、三七三、一一一	三、四三六、六〇〇	三、八八、二二三	二、〇三一、五八六	二二六、三四五六、三三五、七九三
水產物	一、六六六、四九二	三六二、九四〇	一、三五三、〇六二	一、九六七、二五〇	二、六〇二、七三九	七、〇三三、〇六六	三〇、一八三、五三九
織物	一〇、二五、六九二	二六八、五〇〇	三二六、二二七	—	—	—	六〇〇、四九九〇
畜類	六八〇、六三二	一七三、四〇〇	三三、七六六	四一、四九〇	七五、二五六	—	九二九、二六八
其他ノ雜品	三、四七三、二六五	一、一八五、〇〇〇	一、四五七、九八九	六六七、五〇〇	二、一二五、四八九	—	三四、七八三、七五四
合計	一七八、七三八、〇七七	二、四一三、五七三	四、五三三、一四五	六、一〇二、八五〇	一〇、六三五、九九五	九、〇六三、六五二	二〇三、八三三、一四九

市場一覽表

商品陳列所一覽表

備考 第一號市場 場屋ヲ設ケ又ハ場屋ヲ設ケザルモ區劃シタル地域ニ於テ毎日又ハ定期ニ多數ノ需要者

及供給者來集シ貨物ノ賣買交換ヲ行フ場所

第二號市場 二十人以上ノ營業者一場屋ニ於テ主トシテ穀物、食料品ノ販賣ヲ行フ場所

第三號市場 委託ヲ受ケ競賣ノ方法ニ依リ販賣ヲ行フ場所

商品陳列所一覽表

陳列名所	所	在 地
朝鮮總督府商工獎勵館	京畿道京城府南大門通四丁目	
忠清北道物産陳列館	忠清北道清州郡邑內面	
忠清南道物産陳列所	忠清南道大田郡大田邑本町二丁目	
全羅北道商品陳列所	全羅北道全州郡全州邑大正町三丁目	
全羅南道商品陳列所	全羅南道光州郡光州邑光山町	

慶尙北道商品陳列所	慶尙北道大邱府上町
慶尙南道産業獎勵館	慶尙南道釜山府榮町
黃海道物産陳列館	黃海道海州郡海州邑
平安北道物産陳列所	平安北道新義州府榮町
江原道物産陳列館	江原道春川郡春川邑
咸鏡南道商品陳列所	咸鏡南道咸興府昭和町
咸鏡北道物産陳列館	咸鏡北道鏡城郡羅南邑本町

商工會議所一覽表

會議所名	所在地
朝鮮商工會議所	京城府長谷用町一一一
京城同	同

商工會議所一覽表

商工會議所一覽表

開城同	仁川同	大田同	群山同	木浦同	釜山同	大邱同	平壤同	鎮南浦同	新義州同	咸興同	元山同
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	-----	-----

開城府東本町三四	仁川府山手町三ノ三	大田邑本町	群山府明治町九八	木浦府仲町二ノ一	釜山府西町一ノ九	大邱府東門町九	平壤府山手町三四	鎮南浦府三和町三二	新義州府榮町四ノ一	咸興府昭和町一ノ一〇一	元山府海岸道二ノ七
----------	-----------	-------	----------	----------	----------	---------	----------	-----------	-----------	-------------	-----------

重要物産同業組合一覽表 (昭和十年一月末調)

名稱	事務所位置	地區	業ノ種類	設置認可年月日	會計始期	組合員數
京城同業組合	京城府	京畿道高陽郡崇仁面及漢芝面	織物(紐織ヲ含ム)ノ製造販賣及加工業	大正七年五月二十一日	四月	三五
朝鮮果物同業組合聯合會	京城府	慶尙北道果物同業組合、三浪津果物同業組合、鎮南浦果物同業組合、黃州郡果物同業組合		大正十五年十月二十日	四月	四
京畿道蠶種同業組合	京畿道高陽郡崇仁面	京畿道一圓	蠶種製造業	昭和七年五月三日	四月	三

重要物産同業組合一覽表

重要物産同業組合一覽表

同三浪津果 業組合物	同馬山 業租酒 合造	果慶 物向 同業 組北 合道	同忠 業北 組蠶 合種	同忠 業北 組紙 合物	同開 業城 組人 合蓼
慶密陽郡 向南下 東面道	馬山 府	大邱 府	忠清北 州北 邑道	忠清北 川郡 堤川 面道	開京城 畿 府道
慶尚南道 密陽郡 下東面 三浪里、 栗洞里、 安田里	馬山府	大邱府、 慶山郡、 漆谷郡、 善山郡	忠清北 道	堤川郡、 忠州郡、 東良面、 山尺面	開城府 開豐郡
外搬出販賣業	清酒釀造業	李桃、 梨、 葡萄、 生菓、 及道外 搬出販 賣業	各種製造業	紙ノ製造販賣及 製紙原料生産業	紅蓼專賣令第五 條ノ指定區域内 ニ於テ收穫スル 水蓼ヲ生産原料 トスル白蓼ノ製 造販賣業
大正十一年 一月十九日	大正十年 十月十八日	大正六年 十二月廿二日	昭和九年 二月七日	大正十一年 七月三日	昭和八年 九月十六日
四月	九月	四月	四月	四月	四月
三	三	三	四	一〇五	一五

同業組合	同業組合	同業組合	同業組合	同業組合	同業組合	同業組合
元山果物	成鏡南道 德源郡府内	平安北道 新義州府綠町	平安南道 平壤府南町	鎮南浦府	黃州郡黃州面	慶尙南道 金海郡大湍面
	元山府、德源郡 豐上面、豐下面 （面ヲ除ク）	平安北道一圓	平安南道一圓	鎮南浦府及龍岡郡	黃州郡	金海郡大湍面駕 洛面大沙里
ス販賣業	同	同	各種製造業	苹果、梨及桃ノ 生産又ハ販賣業	苹果ノ 産販賣業	梨、苹果、桃、葡萄、柿ノ 生産業
五月九日	昭和八年	昭和八年 二月九日	昭和七年 十二月十五日	大正十二年 六月二十一日	大正十四年 九月三十日	昭和二年 十月五日
四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月
		三	三	五二	三二	二二
						四

重要物産同業組合一覽表

富寧郡木炭 同業組合	咸鏡北道 富寧郡富寧面	咸鏡北道 咸鏡北道富寧面	鏡城郡羅南面、 龍城面、水北面、 農國洞及梧村面 六ヶ洞、 城南洞、勝岩洞、 里洞、壽星洞、 城北洞、松郷洞	蘋果、梨ノ生産 又ハ道外ニ搬出 販賣業	昭和二年 十月十一日	一月	四七
富寧郡木炭 同業組合	咸鏡北道 富寧郡富寧面	咸鏡北道 咸鏡北道富寧面	木炭ノ製造及地 區外ニ搬出販賣 業		昭和三年 二月十三日	四月	四七
鏡城郡木炭 同業組合	咸鏡北道 鏡城郡廳内	咸鏡北道 鏡城郡廳内	木炭製造業		昭和八年 八月十日	四月	四八

産業組合一覽表 (昭和十年一月末現在)

産業組合 京城第一購買會	事務所ノ 所在地	設立年月日	販賣事業 (主ナル取扱物)	購買事業 (主ナル取扱物)	利用事業 (主ナル設備)
京城第一購買會	京城畿 府道	昭和六年 八月十一日	—	食料品、被服、 燃料機噐器具、 化粧品、藥品、文 房具、書籍雜誌、 其他日用雜貨	—

産業組合一覽表

江華 組合業	京畿 道 江華郡府内面	昭和 六年 九月五日	絹布、麻布、苧 布、綿布、生絲、 花筵、鹽筵	産業用機械器具 精練及漂白用藥 品、染料、仕上 劑、生絲、大麻 絲、苧麻絲、綿 絲、人造絹絲、 毛絲	倉庫、共同作業 場、産業用機械 器具
素砂産業組合	京畿 道 富川郡素砂面	昭和 七年 七月二十二日	桃其、他果實及 蔬菜	産業用機械器具 果實苗木、肥料 消毒用藥品、家 畜飼料	倉庫、産業用機 械器具
舒川産業組合	忠清 南道 舒川郡舒川面	昭和 二年 一月二十六日	苧布、春布	苧麻、産業用機 械器具	織物ノ精練漂白 設備
扶餘産業組合	忠清 南道 扶餘郡鴻山面	右同	右同	右同	共同作業場 (織機精練漂白)
保寧産業組合	忠清 南道 保寧郡大川面	右同	苧布、綿布、麻 布	苧麻、綿絲 産業用機械器具	織物ノ精練漂白 設備
青陽産業組合	忠清 南道 青陽郡青陽面	右同	苧布、春布	苧麻、苧麻絲 産業用機械器具	
大田産業組合	忠清 南道 大田郡大田面	昭和 五年 十一月十七日	米、豚肉	肥料、農具、仔 豚、粟、吠	倉庫、大豆粕粉 碎精玄精白設備

産業組合一覽表

井邑産業組合	全羅北道 井邑郡井邑面	昭和二年 三月二十八日	苧布、麻布、絹	苧麻、苧布 産業用機械器具	倉庫共同作業場
高敞産業組合	全羅北道 高敞郡高敞面	右同	苧布、苧麻、朝鮮紙類	苧麻、苧布、陶器 産業用機械器具	倉庫 産業用機械器具
茂朱産業組合	全羅北道 茂朱郡茂朱面	右同	紙類、穀類、木炭	楮皮、藥品、機具 米、肥料、粟	倉庫製紙作業場 産業用機械器具
不二農村産業組合	全羅北道 沃溝郡米面	昭和三年 三月三十一日	米、麥	産業用土地建物 肥料	産業用土地建物 機械器具
鳳翔産業組合	全羅北道 全州郡鳳東面	昭和五年 九月四日	生蠶	産業用機械器具 種蠶、肥料、經濟用品	倉庫 産業用機械器具
群山産業組合	全羅北道 群山市	昭和五年 十二月廿六日		穀類、食料品 其ノ他經濟用品	
南原産業組合	全羅北道 南原郡南原面	昭和六年 五月二十八日	團扇、米、麥、麻布	團扇原料、産業用機械器具、米、麥、大豆、粟、乾物類、布白類、石油	共同作業場倉庫

淳昌產業組合	裡里產業組合	潭陽產業組合	靈巖產業組合	長興產業組合	浦川產業組合	求禮產業組合	濟州產業組合
全羅北道 淳昌郡龜巖面	全羅北道 益山郡裡里邑	全羅南道 潭陽郡潭陽面	全羅南道 靈巖郡靈巖面	全羅南道 長興郡長興面	全羅南道 靈光郡郡南面	全羅南道 求禮郡求禮面	全羅南道 濟州郡濟州面
昭和九年 十月八日	昭和八年 九月十二日	昭和二年 三月八日	右同	昭和三年 三月二十七日	昭和四年 五月二日	昭和四年 六月五日	昭和五年 三月二十七日
紙類	米、麻布、綿布	米、竹製品	右同	米、苧布、綿苧	米、麥	麻布、米	食牛鵝、鵝卵、 蜂蜜
產業用品	肥料、綿絲、麻 綿經濟用具	竹製品原料材料 機械器具、鹽、 肥料	右同	肥料、苧麻、麻絲 綿布、產業用機 械器具、鹽	肥料、鹽 產業用機械器具	肥料、產業用機 械器具、農產種 子、繩、叭、鹽	產業用器具及材 料、蜂王
倉庫、共同作業 場製紙機械		倉庫 共同作業場、竹 材	右同	倉庫、共同作業 場(機織、漂白)	倉庫、玄米調製 設備產業用機械 器具	倉庫、麻布共同 作業場(機械漂 白)	肥育舍

産業組合一覽表

産業組合一覽表

普門産業組合	咸昌産業組合	義興産業組合	慶州産業組合	乾川産業組合	龍城産業組合	長城産業組合	榮山浦産業組合
慶尙北道 醴泉郡普門面	慶尙北道 尙州郡咸昌面	慶尙北道 軍威郡義興面	慶尙北道 慶州郡慶州面	慶尙北道 慶州郡西面	慶尙北道 慶山郡龍城面	全羅南道 長城郡長城面	全羅南道 羅州郡榮山面
昭和二年 十二月廿八日	昭和二年 八月六日	昭和二年 七月二十九日	昭和二年 七月二十三日	昭和二年 七月九日	昭和二年 三月二十八日	昭和七年 十二月十日	昭和六年 九月五日
米、絹布、麻布	綿布、絹布、米	米、莞草製品、 麵子	紙、米、麻布、 綿布	麻布、絹布、紙	紙、麻布、米	紙、紙製品、米 麥、大豆	蕎麥、農產種子 米、麥、大豆、 卵
繭、生絲、大麻 綿絲、鹽、麻絲	生絲、肥料、食 鹽、綿絲	肥料、綿絲、麻子 肥料、鹽	肥料、楮皮、產 業用機械器具、 薪炭	楮皮藥品、肥料 鹽	製紙原料藥品、 產業用機械器具 鹽	產業用機械器具 肥料、繩、製 紙原料	產業用機械器具 肥料、繩、鹽 繭筵用品
共同作業場 產業用機械器具	倉庫、共同作業 場(機械、精練、 染色)	倉庫 玄米調製設備	倉庫 製紙作業場	倉庫、製紙作業 場玄米調製設備	倉庫、製紙作業 場產業用機械器 具	倉庫、製紙作業 場玄白米調製設 備、產業用機械 器具	倉庫 產業用機械器具

東村產業組合	慶尚北道 達城郡解顔面	昭和五年 十一月十九日	蔬菜、漬物、果實、穀物、種苗	肥料、種子、農具、農作用材料、漬物用材料	揚水機 加工用設備
店村產業組合	慶尚北道 聞慶郡戶西面	昭和八年 一月十二日	絹布、麻布、綿布、乾柿、薑、加工品、米、麥	産業用機械器具、生絲、肥料、穀類、食鹽、石油、其他經濟用品	倉庫、織物作業場、脫穀及精玄白製粉ノ設備、産業用機械器具
鳳樹產業組合	慶尚南道 宜寧郡鳳樹面	昭和二年 五月十七日	紙	楮皮、藥品、鹽器具	倉庫、共同作業場、産業用機械器具
釜山第一產業組合	慶尚南道 釜山府	昭和三年 一月十九日	蒲針、竹輪、櫻乾、素乾	漁具、鹽、石油、水箱	産業用機械器具、冷藏庫
昌寧產業組合	慶尚南道 昌寧郡昌寧面	昭和十年 一月二十四日	農産物、繩、織物	産業用機械器具、産業及經濟用品	倉庫、共同作業場、産業用機械器具、冠婚、葬祭用具
守山產業組合	慶尚南道 密陽郡下南面	昭和九年 二月七日	米、麥、繩、叭	肥料、藜、楮皮、經濟用品	精米麥機、繩仕上機
山東產業組合	慶尚南道 密陽郡金谷里	昭和九年 十一月十四日	農産物、柿、栗、木炭、繩、叭、紙等	産業用機、機械器具、産業及經濟用品	倉庫、共同作業場、産業用機械器具、冠婚、葬祭用具

産業組合一覽表

産業組合一覽表

大峴産業組合	慶尙南道 蔚山郡 大峴面呂川里	昭和九年 十二月二十七日	豆、果物、米、麥、大 叭、繩、筵席	産業用機械器具 産業及經濟用品	倉庫、共同作業 場、産業用機械器 具、冠婚、葬祭 用具
彦陽産業組合	慶尙南道 蔚山郡彦陽面	昭和九年 十二月二十一日	農産物、繩、叭、竹製品 織物等	産業用機械器具 産業及經濟用品	倉庫、共同作業 場、産業用機械器 具
河東産業組合	慶尙南道 河東郡河東面	昭和九年 一月二十五日	米、紙、繩、叭	肥料、糞、楮皮 經濟用品	精米、麥機繩仕 上機
居昌産業組合	慶尙南道 居昌郡居昌面	昭和九年 十二月二十七日	織物、生絲、紙 藥品、農産物	産業用機械器具 産業及經濟用品	倉庫、共同作業 場、産業用機械器 具、浴場、理髮場 冠婚、葬祭用具
太陽産業組合	慶尙南道 陝川郡太陽面	昭和三年 四月二十日	米、紙	楮皮、藥品、鹽 器具	倉庫 製紙作業場
咸陽産業組合	慶尙南道 咸陽郡咸陽面	昭和三年 四月二十日	紙	右同	右同
德山産業組合	慶尙南道 山淸郡次川面	昭和三年 九月二十六日	右同	右同	右同

陽德產業組合	德川產業組合	溫泉產業組合	東萊產業組合	南海產業組合	金海產業組合	大山產業組合
平安南道 陽德郡九龍面	平安南道 德川郡德山面	黃海南道 震津郡馬山面 溫泉	慶尙南道 東萊郡東萊面	慶尙南道 南海郡南海面	慶尙南道 金海郡大渚面	慶尙南道 昌原郡大山里
昭和三年 七月二日	昭和二年 三月二十八日	昭和十年 一月三十一日	昭和八年 五月二十日	昭和七年 十月二十日	昭和七年 五月三十日	昭和七年 三月二十八日
麻布、綿布、交織布、穀類、春	絹布、麻布、春布、苧布	米、麥、大豆、繩	米、煙管、繩	苧布、麻布、綿布、絹布、米麥	梨、蘋果、桃、葡萄、柿其他農產物	叭、米、大麥、小麥
亞麻絲、綿絲、繭、蠶、絹布、產業用品	繭、產業用器具、生絲、麻絲、大麻	產業用機械器具、產業及經濟用品	肥料、煙管材料、器具、經濟用具	產業用機械器具、苧麻、紡績麻絲、肥料、其他經濟用品	產業用機械器具、及肥料、病蟲驅除用器具、藥品、果物器具及其包裝材料	產業用機械器具、肥料、鹽、石油、其他經濟用品
倉庫、麻布共同作業場、產業用機械器具	倉庫、共同作業場、產業用機械器具	倉庫、精米調製設備、產業用機械器具	精白、繩上作業場	倉庫及織用作業場、產業用機械器具	共同貯藏庫、倉庫、產業用機械器具、果樹病蟲害ノ驅除豫防並輸出果物ノ消毒ニ必要ナルモノ	倉庫、共同作業場

産業組合一覽表

産業組合一覽表

鴨綠江木材産業組合	泰安北道新義州府	昭和七年十一月三十日	木材	繫筏場、貯木場
泰川産業組合	泰安北道泰川郡	昭和九年十二月二十八日	莞草製品、農産物、織物、林産物	産業用機械器具、倉庫、作業場
新義州産業組合	平安北道新義州府老松町	昭和三年九月十九日	靴下、手袋、莫大小類、粗	産業用機械器具、栗、木炭、倉庫、機織、染色及仕上工場
寧邊産業組合	平安北道寧邊郡寧邊面	昭和二年三月十日	絹布、麻布、綿布、繭	産業用機械器具、絲、經濟用品、絹、倉庫、共同作業場、産業用機械器具
成川産業組合	平安南道成川郡成川面	昭和四年七月五日	絹布、綿布	産業用機械器具、繭、生絲、綿絲、倉庫、共同作業場、産業用機械器具
孟山産業組合	平安南道孟山郡孟山面	昭和十年一月二十八日	農産物、織物、紙	産業用機械器具、産業及經濟用品、倉庫、共同作業場、産業用機械器具
鎮南浦産業組合	平安南道鎮南浦府	昭和三年十一月廿七日	苹果、桃、梨、櫻桃	産業用機械器具、病蟲除藥及材料、包裝材料、倉庫、産業用機械器具
順川産業組合	平安南道順川郡順川面	昭和三年十一月廿二日	絹布、綿布、朝鮮紙	産業用機械器具、繭、生絲、産業用機械器具、經濟用品、倉庫、絹布共同作業場、産業用機械器具

平康産業組合	江原道 平康郡平康面	昭和三年 三月三十一日	米、麥	産業用土地建物 肥料	産業用機械器具 土地建物
永興産業組合	咸鏡南道 永興郡洪仁面	昭和二年 一月二十六日	絹布、綿布、安 平	生絲、大麻、蘆草 産業用機械器具	倉庫、共同作業 場、産業用機械 器具
新興産業組合	咸鏡南道 新興郡面	昭和七年 四月十九日	麻布、木炭、大 豆	麻絲、粟、メリ ケン粉	倉庫、共同作業 場、産業用機械 器具
咸興産業組合	咸鏡南道 咸興府	昭和八年 一月三十一日	苹果、梨、葡萄 及其他ノ果實	産業用機械器具 果樹病虫害驅除 藥品、肥料	倉庫、共同作業 場、産業用機械 器具
錦川産業組合	咸鏡北道 吉州郡徳山面	昭和九年 十二月十二日	穀類、織物、藁 工品、莞草製品	産業用機械器具 及經濟用品	産業用機械器具

朝鮮總督府商工獎勵館規則

第一章 總 則

第一條 朝鮮總督府商工獎勵館ハ商品ノ改良及販路ノ擴張ヲ圖ル爲左ニ掲グル業務ヲ行フ

一 商品ノ見本及參考品ノ蒐集及陳列

二 商品ノ試賣

規 則

三 商品及商取引ニ關スル各種ノ調査及紹介

四 商工業ニ關スル圖書其ノ他ノ刊行物ノ發行、蒐集及供覽

五 商品ノ意匠及圖案ニ關スル調査及研究

六 鮮内重要物産ニ關スル技術上ノ研究

七 産業發達上適切ナル諸集會ノ開催

八 其ノ他商品ノ改良及販路ノ擴張ニ關スル施設

第二條 本館ノ陳列品ハ參考品及普通出品ノ二種トス

見本又ハ參考トシテ本館ニ於テ購入シ又ハ當業者其ノ他ヨリ出品又ハ寄贈シタル陳列品ヲ參考品トス

當業者ヨリ販賣ノ爲出品シタル陳列品ヲ普通出品トス

第三條 本館ハ祭日、祝日及朝鮮總督府始政記念日ノ翌日、月曜日竝ニ十二月二十五日ヨリ翌年

一月三日迄休館スルノ外毎日左ノ通開閉ス但シ時宜ニ依リ開閉時限ヲ變更シ、臨時開館若ハ休館シ又ハ一時觀覽若ハ閱覽ヲ停止スルコトアルベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ都度之ヲ公示ス

三月一日ヨリ六月三十日迄

午前九時開館 午後五時閉館

七月一日ヨリ八月三十一日迄

午前八時開館 午後三時閉館

九月一日ヨリ十月三十一日迄

午前九時開館 午後五時閉館

十一月一日ヨリ翌年二月末日迄

午前十時開館 午後四時閉館

閉館中ト雖官公署、學校、團體等ヨリ豫メ申込アルトキハ特ニ觀覽又ハ閱覽ヲ許可スルコトアルベシ

第二章 出品及寄贈

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ外出品又ハ寄贈ハ之ヲ受諾セズ

- 一 朝鮮内ノ生産品ニシテ現ニ取引大ナルモノ
- 二 朝鮮内ノ生産品ニシテ取引未ダ大ナラザルモ前途發達ノ見込アルモノ
- 三 朝鮮外ノ生産品ニシテ鮮内ノ生産發達ニ資スベキモノ

四 其ノ他本館ニ於テ必要アリト認ムルモノ

第五條 出品又ハ寄贈セントスル者ハ第一號様式ニ依ル申込書（本館ニ於テ交付ス）ニ必要ナル事項ヲ記入シ本館宛之ヲ提出スベシ

現品ハ出品又ハ寄贈受諾書到達ノ上出品者又ハ寄贈者ニ於テ入記目錄ヲ添ヘ之ヲ本館ニ送付スベシ但シ出品者又ハ寄贈者ニ於テ現品ヲ持參スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ出品又ハ寄贈ハ之ヲ拒絶スルコトアルベシ

一 危險アリト認ムルモノ

二 腐敗ノ虞アリト認ムルモノ

三 風俗又ハ秩序ヲ紊ルノ虞アリト認ムルモノ

四 衛生上有害ト認ムルモノ

五 他ノ物品ニ妨害ヲ與フル虞アリト認ムルモノ

六 種類、性質、容積等ノ關係上本館ノ陳列ニ適セズト認ムルモノ

第七條 出品人ハ生産者、製造業者又ハ卸賣商人ナルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 出品ノ荷造及運送ニ要スル費用ハ出品人ノ負擔トス但シ返送ニ要スル費用ハ時宜ニ依リ本館ニ於テ支辨スルコトアルベシ

第九條 寄贈品ノ荷造及運送ニ要スル費用ハ本館ノ負擔トス

寄贈者ハ荷造及運送ニ要スル費用（不明ノ向ハ其ノ見込額）ヲ申込書摘要欄ニ成ル可ク詳細ニ記載スベシ

第十條 出品ノ預證及寄贈品ノ領收證ハ第二號様式ニ依ル到着通知書ヲ以之ニ代フ

第十一條 陳列ハ無料トス但シ出品ノ容器裝飾等ニ付本館ノ承認ヲ受ケ特別ノ裝置ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトアルベシ

第十二條 普通出品ハ確實ナル引受人ヲ指定シ賣店ニ於テ之ヲ販賣セシム

前項ノ販賣ニ付テハ價額ノ百分ノ七ノ販賣手数料ヲ徵ス

第十三條 普通出品ノ賣上代金ハ送金料、關稅及手数料ヲ控除シ前月分ヲ翌月送金ス但シ五圓未滿ハ五圓ニ達スル毎ニ之ヲ送付ス

第十四條 本館ニ於テ必要アルトキハ出品人ニ對シ出品ノ處分又ハ變更ヲ要求スルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テハ出品人之ニ應ゼザルトキ又ハ緊急ヲ要スルトキハ本館ニ於テ適宜之ヲ處分ス

第十五條 出品ニ關シ天災事變、盜難其ノ他避クベカラザル事由ニ因リテ生ジタル損害ニ付テハ之ガ賠償ノ責ニ任ゼズ

第三章 觀覽

第十六條 本館ノ觀覽時間ハ第三條ノ開館時間内トス

第十七條 本館ノ觀覽ハ無料トス

第十八條 瘋癩、白痴、醉狂其ノ他秩序風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムル者ニ對シテハ觀覽ヲ拒絕ス

第十九條 觀覽者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一 館員ノ許諾ナクシテ陳列品ニ手ヲ觸ルルコトヲ得ズ

二 館員ノ許諾ナクシテ陳列品ヲ撮影又ハ模寫スルコトヲ得ズ

三 危險ナル物品ヲ携帯スルコトヲ得ズ

四 館内ニ於テ弄火、喧噪又ハ雜沓スベカラズ

五 喫煙ハ指定ノ場所以外ニ於テ之ヲ爲スベカラズ

六 陳列品ニ關シ説明又ハ紹介ヲ求メントスルトキハ館員ニ申出ヅベシ

七 揭示ノ事項及館員ノ注意ニ從フベシ

第二十條 陳列品ヲ破壞又ハ汚損シタル者ニハ之ガ辦償ヲ爲サシムルコトアルベシ

第二十一條 觀覽人本館規則ニ違背シ又ハ館員ノ指圖ニ從ハザルトキハ觀覽ヲ拒絕シ館外ニ退出セシムルコトアルベシ

第四章 圖書閱覽

第二十二條 圖書ヲ閱覽セントスル者ハ係員ニ申込み備附ノ帳簿ニ圖書名、冊數及自己ノ住所

氏名ヲ記入シ圖書ヲ借受ケ閱覽後ハ之ヲ返還スベシ

第二十三條 圖書閱覽人ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一 圖書ヲ室外ニ持チ出スコトヲ得ズ

二 閱覽中ハ喫煙、音讀、雜誌其ノ他他人ノ妨害ト爲ルベキ舉動アルベカラズ

第二十四條 第十六條乃至第十八條、第二十條及第二十一條ノ規定ハ圖書閱覽ニ之ヲ準用ス

第五章 調查紹介及圖案調製

第二十五條 商工業ニ關スル調査又ハ紹介ヲ望ム者ハ其ノ事項ヲ具シ本館ニ申出ヅベシ但シ本館ハ調査又ハ紹介ノ事項ニ依リテハ其ノ依頼ニ應ゼザルコトアルベシ

第二十六條 調査又ハ紹介ハ無料トス但シ特ニ必要ナル費用ハ依頼者ノ負擔トス

第二十七條 鮮内當業者ニシテ業務上必要ナル圖案ノ調製ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ本館ニ申出ヅベシ但シ本館ニ於テ調製ノ必要ナシト認ムルトキ又ハ事故アルトキハ其ノ依頼ニ應ゼザルコトアルベシ

- 一 圖案ヲ應用スベキ物品ノ名稱、品質、色彩、寸法、用途及調製スベキ圖案ノ豫定價額
- 二 其ノ他必要ナル事項

第二十八條 圖案ハ本館ニ於テ必要ト認ムルモノノ外同一人ニ付同時ニ二以上ノ調製ノ依頼ニ應ゼズ

第二十九條 圖案ハ無料ニテ之ヲ交付ス但シ必要アルトキハ之ガ作製ニ要スル材料又ハ参考品ヲ提供セシムルコトアルベシ

第三十條 材料又ハ参考品ノ荷造及運送ニ要スル費用ハ依頼者ノ負擔トス

第三十一條 参考品ニ關シテハ第十五條ノ規定ヲ準用ス

第六章 講演室及陳列室ノ貸與

第三十二條 産業ニ關スル諸集會其ノ他特ニ有益ト認ムル各種ノ催シニ對シテハ陳列室ノ一部又ハ講演室ノ使用ヲ許可ス

第三十三條 陳列室ノ一部及講演室ノ使用時間ハ特ニ認ムル場合ノ外第三條ノ開館時間内トス

第三十四條 陳列室ノ一部又ハ講演室ヲ借受ケ使用セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ本館ニ申出デ許可ヲ受クベシ

一 使用ノ日時

二 使用ト目的及方法

三 使用責任者ノ住所、氏名

第三十五條 陳列室ノ一部及講演室ノ使用ハ無料トス但シ時間外ノ使用ヲ許可セラレタル者ハ點燈暖房及掃除ニ要スル費用ヲ負擔スベシ

第三十六條 陳列室ノ一部又ハ講演室ノ使用ヲ許可セラレタル者鑿、釘、糊其ノ他建物ヲ破毀又ハ汚染スル虞アルモノヲ使用セントスル場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ申出デ館員ノ指圖ヲ承クベシ

第三十七條 室内備附品、本館ヨリ貸與シタル什器等ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ之ガ辦償ヲ爲サシムルコトアルベシ

第三十八條 陳列室ノ一部又ハ講演室ノ使用ヲ許可セラレタル者本館規則ニ違背シ又ハ館員ノ指圖ニ從ハザルトキハ其ノ使用ヲ禁止又ハ停止スルコトアルベシ

(第一號様式)

表面 一 續紙ハ別紙ト爲スモ妨ゲズ

一 出品者ハ必ず本書摘要欄ニ賣品、非賣品ノ區分ヲ記スベシ賣品ハ販賣ノ依頼アリタルモノト認ム

出品 申 込 書
寄贈

昭和 年 月 日

住 所

申 込 人

左記 出品 致度此段及申込候也
寄贈

朝鮮總督府商工獎勵館 御中

番 號	品 名	形 狀 又ハ模 様	地 質	員 數	單 位 (一筒又ハ一組) 價 格		摘 要
					小 賣 價 格 円	卸 賣 價 格 円	

裏面

解説 (解説多岐ニ涉ルトキハ別紙ト爲スヲ妨ゲズ)

品名	
商號商標及製造人	
製造所販賣所代理販賣店ノ位置	
品質及用途	
一ヶ年製産額、數量	價額
一ヶ年販路額	
主ナル販路	
開業年月	
其他參考事項	

(注意) 一 價額ハ關稅、運賃、販賣手数料其ノ他諸掛ヲ計上シ京城ニ於テ卸賣及小賣シ得ベキモノタルヲ要ス

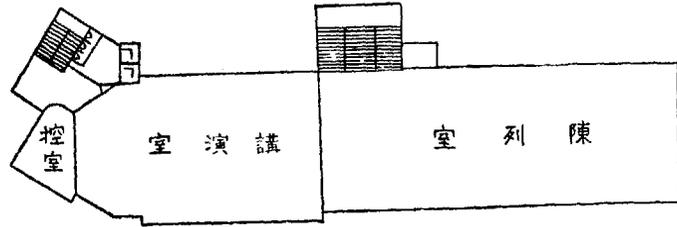
一 價額ハ徒ラニ低廉ニ失シ將來販路等ニ惡影響ナキ様注意スベシ披露廣告等ノ爲割引販賣ヲ爲サントスルモノハ其ノ理由及歩合ヲ摘要欄ニ記スベシ

陳列品點數 (昭和十年三月末現在)

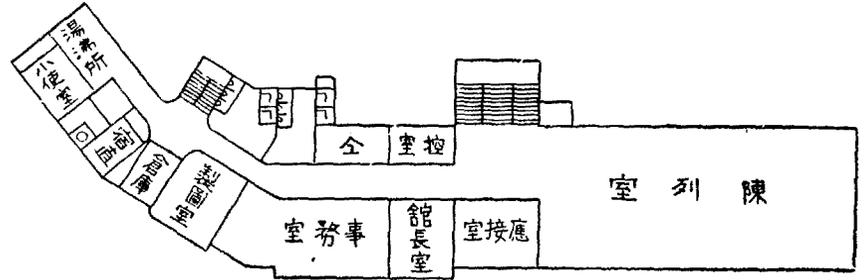
種目	點數	種目	點數
農産品	二六六 ^點	皮革ゴム製品	一七六 ^點
林産品	五二	纖維加工品	三三五
鑛産品	六六	食料品	四二六
水産品	一七七	機械器具	一八
織物及其ノ製品	七一五	雜工品	三五四
窯業製品	四九五	内地産及外國産	三〇一
金屬及玉石製品	三一九	參考資料	七一一
漆器及木竹製品	六一一	總計	五、二五六
紙及其ノ製品	二二八		

朝鮮總督府工商獎勵館平面圖

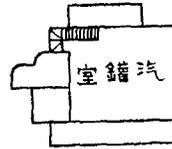
六百分之一



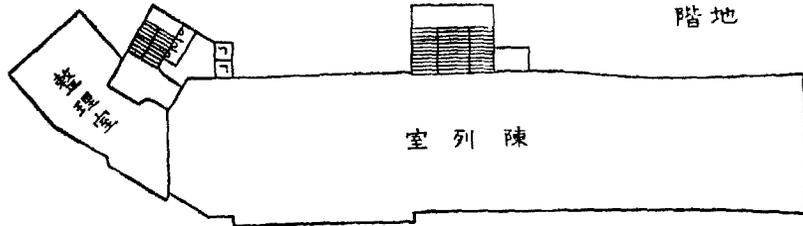
階四



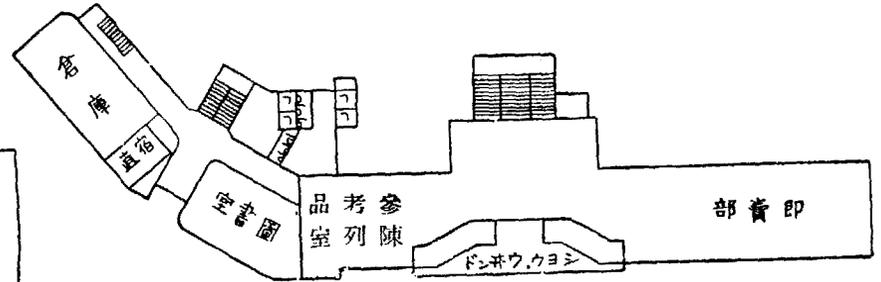
階二



階地



階三



階一

昭和十年三月廿五日印刷
昭和十年三月廿八日發行

發行者

朝鮮總督府商工獎勵館

京城府長谷川町七十六番地

印刷所 近澤印刷部

